# 女學雜誌

一冊六錢
各土曜日出版
第百八拾三號
當府内無郵税
郵税五厘

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

## (JOGAKU ZASSHI.)

No. 183. October 19th, 1889.



EDITORIAL:—Why has Jogaku Zasshi become a Political Magagine?

LEADING ARTICLE:—Morals of Europe and America (Mr. Shimada.)

CRITICAL NOTES:—"Fūrūbutsu." "Sayomonogatari." "Sōenwō." (Tenshūkoji) A word of thanks to the Editor.

MISCELLANEOUS:—Franklin's Courage. Satire. Woods and Floods. On the Death of Miss Masa Miyajima.

NOVEL:—"Sumire" (Wakamatsu Shizu.)

OPEN LETTERS:—A Letter from the Ladies "Hakuhyō" Association to the General Conference of the "Liberal Party" Answers to some Questions.

CONTRIBUTED ARTICLES: "Nansuigaishi." (Hinkunshi) Six Wise Women of Fukuoka (A Poem.)

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.


第百八十三號目錄


社説　女學雜誌は何故に新聞紙條例に遵ふ乎

論説　西洋國の道德(島田三郎)

批評　露伴子の「風流佛」(天囚居士の「小夜物語」及「双鴛鴦」○謹んで女學記者に謝辭を呈す(松蘿堂)

雜錄　諷刺○フランクリンの勇○洪水と山林○宮島政子を追悼す(善治)

兒籃　船長のはなし(下)

小説　菫々栞第一(露を拂ふ姿)

寄書　南翠先生は明治文學の一大美觀(貧君子)○筑前女子六哲歌(松井淩雲齋)

開書　全國有志懇親會に送る書(婦人白標苦樂部)○問答

時事　女學雜誌の改進○其天職如何ん○伊藤伯辭職○人安んぞ廋さんや○三黨三對○改進黨に忠告す○今日の政黨○條約改正の問題○親分と子分○之を權量せよ○日本婦女英國女王に呈書す○無禮なる外國人○外九件

報　東京女子手藝學校○本多せん子○東京女學○供奉の女官○其他七件


# "THE JOGAKU ZASSHI."

*The Jogaku Zasshi from this No. ceases to be simply a literary magagine and will become amenable to regulation-laws concerning political periodicals.*

*However, it will not only continue to be the friend of the woman, but will seek to be her better friend by widening the scope of its outlook. It proposes to give a correct and comprehensive outlook on the movement of and for women both national and foreign, adding free and fair comments on the same and will be of assistance in ascertaining for them their olligationstoward the political and the social world.*

*It will seek hereafter to be also the friend of the common people and the poor, aspiring to help them entertain pure, just and philanthropic views in regard to their duties as Japanese people.*

*Therefore Jogaku Zasshi without identifying itself with any political party, proposes to give free and unbiassed views on the political movements of the times besides advocating all that is true and noble in Art, Literature, Education and Religion and aspires more than ever to minister to the advancement of the Great Cause of Truth and Righteousness.*


Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百八十三號

明治二十二年十月十九日發兌

## 社説

### ○女學雜誌は何故に新聞紙條例に遵ふ乎

男兒の生るゝや鳴く聲高く、女兒の生るゝや至つて靜粛なり、夫れ出生の初に於て相違する既に如此し、彼等が天質の不同は其の長ずるに隨つて増長す、男子は事あらんとを欲し、女子は事なからんとを欲す、男子は動かんとを欲し、女子は止まらんとを欲す、男子は患難に向つて逆らはんとを欲し、女子は太平の中に沐浴せんとを欲す。故に男子は暴るゝ風の如し、到る處ろに波濤を起し、樹木を動かし、山岳を震蕩す、女子は恰かも春の如し、氣温たゝかにして且つ麗らゝかなり、空に微動なくして野に花あり鳥歌ひ虫舞ふ。左れば若し男子を以て創業的の英雄と爲さば、女子は即はち守成的の賢才なり、若し男子を以て戰國の豪傑なりとせば、女子は太平の良相なり、男子は磊々として大山の石の如し、女子は楚々として花壇の露の如し、男子は寧ろ人傑と稱すべし、女子は時として天使たるとある也。此を以て彼等が長所は各異れり、男性の長ずる所は彼處に在り、女性の長ずる所ろは此處に在り、目は見ざるが故に口に向つて汝ぢ身に用なしと云ふを得ず、口は言はざるが故に目に向つて汝ぢ身に用なしと云を得ず、男女固より異性なり、然れども其等を異にするに非ず、亭々たる松柏は棟梁に用ゆるを得、爛熳たる百花は世界を美にするを得、二者各自に其德あり、若し各之を發たば互ひに優る所ろあらん。

故に男子の功は戰ふに在り、女子の德は和らぐに在り、共に勇を尊とむと云へども男子は破らんが爲に勇ならんを欲し、女子は繕ろはんが爲めに勇ならんを欲す、昔し源平屋島に激戰す、時に鼓を打ち矛を揮て相殺すは兵卒の事なりき、若夫れ靜波海に一舟を浮べ、日扇を棹にして招きて射せしむ、苦鬪狂喚の中に優々として勝敗を決せしめんとするは即ち美姫の爲す所ろたる也。此故に女子は到る處ろに平和を持來す、一家に於てはホームの女王と爲り、六親を和らげ、痛めるを慰さめ、病めるを醫やす、一鄕に於ては交際塲の女王と爲り、村民を和し、親睦を篤からしめ、戸外に於て家々の大ホームを造らしむ、此の氣之を一國に擴むるときは其功更らに大なり、之を天下に擴むるときは其功最とも大なり。喩へば温氣

の如し、能く一家を温たむ、然れども亦一郷一國を温たむ、其の天下に行はるゝときは即はち天下をして春たらしむるものの也。

吾人密かに方今の形勢を察す、痛嘆すべきの禍機すでに深く根ざせり、誰か云ふ官民調和せずと、豈唯だ官民の調和せざるのみならんや、官海に幾多の不調和あり、民間に幾多の不調和あり、内閣中に幾多の不調和あり、政黨中に幾多の不調和あり、而して其相爭ふを見れば吾人が身すでに人界にあらざるかを疑ふ。吾々は四海同胞ありと云へり、殊に日本人なりと云へり、同一の聖天子を戴だき、同一の歴史を所持し、同一の憲法を握るものと云へり、然れども吾等が相爭ふは呉越よりも急あり、水火よりも激あり、水火の相鬪ふは遂に熄むとあり、彼等は烈火と烈火と相鬪ふものあり、焔々として天下を焼かずんば將に消えざらんとす。

然れども其相爭ふの地若し正當の地にてあらば可なり、世は爭鬪の中に進歩すべし、苟くも善を以て惡に戰かひ、正を以て邪に戰かひ、道を以て不道に戰かふあらば、吾人寧ろ其の戰の激しからんを望む、但だ夫れ藩閥の權衡の爲に、勢力保存の爲に、政黨の勝敗の爲に、一身一家の利益の爲にのみ相戰ふに於てハ、君子は之に加はる能はず、正人は之に黨する能はず、義人は之を助くる能はず、君子正義の人既でに其の爭鬪の外に立てり、彼の爭鬪は果して如何なる爭鬪ぞや。

我日本國は大ひなる船の如し、天皇船樓に御坐し、總理大臣將命を奉むり、政黨各部に分署し、三千九百万の水卒合力して之を行る、苟くも志氣一和し、船路一定せば、此の船は太平洋を最と安らかに渡り盡し、歐米列國の岸頭に高く旭日章を揭ぐるに至らんは必せり、然るに今や水夫は水夫と相爭そひ、火夫は火夫と相爭そひ、倘且つ火夫は其火を水夫の頭に投ぜんとし、水夫は其棹を揮つて火夫の頭を打たんとす。

茲に君子あり、其志想純潔、其德貞正、温乎として四方を薫するの風あり、不義の爭そひを見れば其身を裂るゝ如く感じ、難める者を見れば其身を切るゝ如く感じ、寧ろ身を水火の中に投ずるも之を救はざるを不幸とするものあらん歟、此の君子にして今日の日本國を見る安んぞ默視するに忍びん、況んや此君子にして日本國民にてあり、更に日本國民中の尤も優しきものにてあらば安んぞ坐視せん、思ふに今の爭鬪外に立てる女性は即はち今日の君子なり。

彼等は一家に於ても爭ひを和らぐるもの也、交際場裏に於て

も爭ひを止むるもの也、其繊手は小兒も能く小刀を以て切るべし、然れども勇者の大刃を以て斷ち難きの爭ひをも、女性の繊手は能く之を斷絕するを得べし。彼等は既に一家一鄕の平和者なり、安んぞ亦た一國の平和者たらざらんや。然るに彼等若し今の日本國の形勢に歎ぜずんば是れ未だ日本國を見ざるが故なり、苟くも彼等に今日の形勢を細觀せしめば彼等は號泣すべし。彼等すでに之に歎じ而して其歎聲の聞えずんば是れ世人が未だ之を聞かざる也、世人をして若し之に聞かしむれば感泣して爭ひを止むべし。嗚呼此形勢を寫し、此哭聲を現はすは即はち女學雜誌の任あり、女學雜誌は常に一段の改進を爲すべし。

夫れ女學雜誌は女學を研究し、主張し、實行するとを任とするもの也、其終生に於て希望する所ろは婦女子の友たらんと欲するに在り、故に尤も進みたる女學生の爲には其聲を代言せんとす、未だ進まざる女性の爲には其要めを尋ねんとす、尙ほ苦しむ所ろの女子の爲には之を訴へんとす、僅に和樂する所ろの婦人の爲には之を歌はんとす、故に時勢の進步と共に步を進め、若くは時勢未だ進まざるに當つて先づ一步を進むるが如きは、苟くも眞正に婦女子の友たらんとするもの、義務なるべし、女學雜誌にして敢て之に當らんと欲せば、即はち今日正に一段の改進を要す。

蓋し純潔ある道德、高尙なる美術、平等ある宗教、淸淨なる文學は特に婦女子の進步に切要なるもの也、故に女學の進步に熱心なるものは亦此等に熱心せざる可らず。貧しきもの、痛めるもの、憂ふるもの、苦しむもの、泣くものは皆な女性の慰さめを要するもの也、故に婦女子に代つて注目するものは先づ此等に注目せざる可らず。左れば女學雜誌は道德、美術、宗教、文學等の社界に於て常に正潔高尙博愛ならんとを欲し、彼の多くの憫れむべきもの、爲には常に慈善ならんとを欲す。而して政黨激爭し、國民鬩ぎ、同胞相殺すを見るに至れば固より奮然として起たざる可らず、豈徒らに政論界に入らんや、婦女子天に禱むるの責任あり、女學雜誌はたゞ其命に隨ひて之が爲に奔走するのみ。

如此きが故に女學雜誌は今號より多少の改進を爲すべし、所論固より平素に異なるとなし、たゞ揭載の區域を擴ろめて一つには婦女子の注目する所ろを廣ろうし、二つには世人が婦女子に聞くの聲を大きくす、左れば之より社會上政治上に關するの記事論說をも揭ぐるとあるべし、然れども其要とす



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

る所ろは専ぱら女學上に在るを以て、着眼皆な婦女子の爲にするにあらざるは無し。若し政黨の併見を以て國事を誤まる時、官民の邪推を以て大務を忘るゝ時、不義を以て正義を殺す時、不公平を以て平等を滅する時、強きを以て弱きを挫く時、世上の貧しき者痛める者憐れなるものを忘却する時、冷算褻計に走りて道徳上美術上の注意を失ふ時、腐敗したる文學宗敎の行はれて民心を卑しくする時、凡そ如此き時は尤も切に婦女子が公務國事に盡力するの時なりと信ずるを以て吾人亦敢て一言すべし、之が爲には喜んで千艱に當るべし、万危をも侵すべし。勿論一方の政黨に偏する事、事實を曲げて不義に與する事等はあらざるべし、左れば事あるの時には尤も公平なる、尤も正直なる、尤も不羈獨立なる意見を掲獻することあるべし、若し大事なきに在つては只だホームの事を言ふのみ、既に本國の領地を回收すれば元の如く田舍に退ぞくは蓋し女性の義務なり。

嗚呼今の政論者皆な舞台の上に於て叫べり、若し椽の下より發するの微聲之より聽衆に聞ゆることあらば、之れ即はち女學雜誌の聲なり。

最とも幽かなる聲、而して最も嚴そかなる聲は、眞心に響く。

# 論說

## ○西洋風の道德

島田三郎演

左は過日明治女學校に於て演述せられたるを筆記し更に同氏の校正を經たるものなり。

私の此の學校へ參りましたよりは、稍一年半餘に成りますが、其の間に世の中の事も餘程替りました。此の學校も私が他邦に趨て居る中に、貴孃方が非常に御進歩なされたのは實に貴孃方の御勉強と、並に之を教導なさる處の教員諸氏の御盡力に據る事と存じます。尙ほ併せて感心いたしまするは、私が一年六ケ月餘で歸國致して此の學校に關係ある處の人々から聞きまするに、只今では此學校も前よりは大層人數が殖ゑて、教授の頁き上にも此の校で勉強する處の人は、各自の今迄學んだ處の事を御噺しすると云ふ事に成つて居るさうで有ります。私も我邦の女子の教育は愈よ急である事と存じますから、及ぶ丈けは御手傳も致し度いと思ひますが、何科と云つて豫め極めて置く丈けの事も御座いませんから、折々御噺をして此校の爲めになる事なら何でも御噺し仕樣と思ひます。左りながら御承知の通り暫く留守に致しましたから、其時分の日本とは替つた處も多く有りませう、依て私は一ケ年餘他國に於て見たり聞たり致した處を御噺し致し、又種々なる庶務或は政事上若くは社界上の事を、他の場所に出かけません時は一週間に一度位宛御噺を致す事を約束致し升たから、今日は先づ私の思ひ附いた事、さし當り歐羅巴で見たり聞たりしたることに就て御噺し仕樣と思ひます。此の見聞したる事の中でも、取別け女子に干係ある事に就て御噺しを致さうと思ひます。

先づ第一に今日の歐羅巴でも、現在見たのと是れ迄考へて居た所とは大變違つて居ると云ふことは、先日番町教會でも申した故、其時御出での御方には二度御聞に入れる樣でありますが、西洋諸國の人が三十七八年以前に我邦に來た時は、「歐羅巴の人は強いのと器械を使ふのは上手で有るが、人間の道は誠に野蠻極まる者である」と云ふのは日本人の西洋人を見る處の考へで有つた。夫れから段々交際て見ると中々政事の上にも行屆いて居るのみならず、人間の心得に就ても立派な考が有ることを知りました。夫れから日本も俄に其の國の風を擬し制度文物より改革を爲して今は先づ文明と云はれる樣に成つて來たが、私の考へは毫



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

し違つて居る。則ち歐羅巴の人は學問才智武勇の勝れて居るの外に、社會の上流に無双の光を有つて居ると云ふ事を知ります。其の一例を舉げますと、日本の人が歐洲人と同じ樣な試驗を受けても、中には隨分日本の人が歐羅巴諸國の人の上に出て、花を咲かせて歸る人がある。さうすると學問をする上に於ては中には日本人が歐羅巴人よりも上に出ることが出來、又器用なる點でも中には勝れた人もある。又日本の婦人の教育に就て申せば、中等以上の教育を受けた人ならば、英吉利の都府は何に日耳曼の都府魯西亞の都府ハ何に位の事ハ大抵覺ゑて居る、然るに之に反して歐羅巴諸國の婦人ハ隨分教育を受けたる人でも、日本ハ何處にあるかも知らないが多い、然るに日本婦人ハ其風俗人情に至る迄も研究して居ります、此の點を較べて見ると、日本人と歐羅巴人との智識の上と教育の上に就てハ、今後段々制度が備はり骨を折りましたならば、歐羅巴人との智慧較べをすることハ出來樣と思ふ。

併しながら此に誠に耻づべきことハ、歐羅巴人ハ或る點から見まするに殆んど馬鹿の樣な所がある。何んだと申しますと、先づ日本の人ハ昔しから云ふ通り「人を見たら泥捧と思へ」と戒めてある、人が何とか云つたならば其の事に就て其事を信ずるな疑を十分に入れろと云ふハ支那と日本の古へよりの習慣で有ります。歐羅巴の人ハ之に反對して居る、東洋人が歐羅巴人と商事を行ふときハ、以て歐羅巴人を騙かす事が出來ると云ふて居るから、俗眼を以て之を見れば、歐羅巴の人ハ馬鹿の樣で有ります。併し歐羅巴人中等以上の考へでハ、抑も人の虚言を吐くと云ふ事ハ非常の惡德で、苟も人間たる以上ハ斯樣な惡德ハ爲す間敷き者と思つて居る。是れを日本の人々が思つて居る處と、歐羅巴の人と較べたならば實に耻かしい譯であります。歐羅巴の人ハ「人に欺かるゝとも人を欺くな」と教へてある、實に君子の道德であるです。

私が此の考へを起しましたのハ佛蘭西の馬耳塞から印度洋を越へて參る時、乘り合つた英人にて此方でも亦先方の人も互に名も知らずして、色々の咄の中、此の人ハ旅を好んで隨分諸國を遊歷したる人で、廣く世の中の事情も知つて居ります。此人が私と同行した人に向つて、「私ハ曾て日本にも往つた事がある」とて色々面白き咄や珍らしき話の中に「日本には小判と云ふ金がある、あれを時計の飾りに下げたいと思つて居るが何分得ることが出來無い、今でハ何う云ふ相場であるか、今度私ハ「サイヤム」まで參りますので、日本にハ參ることが出來んが「サイヤム」に一年位居ります故、金を上げますから「サイヤム」の私の往つて居る處まで御屆け下され度い」と云つた。日本人の氣風で見ると、金を渡したならば直ぐ受取書などを取ることをする、然るに況してや初對面の他國人に斯樣なる事を賴んで居る、之を日本の人情から見れば訝かしき程で、此方も先方の人も此處で會つたのみで互に名も知らない、然るに貴所(あなた)が其手數をして吳れるならば只今其の價を上ると云ひました。私も同行したる人も、何うも其の價段が解からないから御賴り申すと云つて分れました。

熟ら日本の人情と先方の人情とを較ぶると、成る程斯の如き有樣である。凡そ人は約束を仕たら其の約束は互に破ることは出來ない、夫れを反對に思つて居るのが日本今日普通一般の風をなして居る。其の風に感染して人を騙かしたりする事は、何うも新聞紙上掩ふべからざる事で御坐いますが、併し是等は下流社會の風で有つて、尋常な人はそんな事はないが、容易に人の言を信じないと云ふ事は一般人の考に成つて居る。して見ると歐羅巴諸國が商賣工業の繁昌することを愈よ盛なるのは、一に此の人を信ずると云ふ氣風を躰して居るからの事で、此點に於ては日本抔の遠く及ばざる所であらうと思ひます。

然らば西洋諸國の事に就ては、喙を容るゝ處が無いかと云ふと然うでない。申して見ますと、彼の英吉利が支那に阿片と云ふ毒藥を賣り込んで、同國民に大邊の害を與へて居る。日本人抔でも、古き考へを持て居る人には、此一事に就て英吉利全躰を以て惡魔の寄合所の樣に思つて居るが、まんざら無理でない、如何にして此の阿片が支那に這入つたかと云ふに英吉利に印度商會と云ふ者が出來て、是より先き葡萄牙國が一番に支那に阿片と云ふ毒藥を賣り附けて居つたのを、英人は之に換はつたので當時は支那の廣東が商賣の場所であつた。惡くすると日本抔も此の害を受けたのであらうが、幸に天の惠みと國運の强かりし爲めに此の害を免れたので御坐いました。今此れを一と度吸ふと、後が吸ひたくなると恰度アルコールを飲み附けたる如く、是れを止めると身を燒かるゝ樣になる、其の時に之を飲むと一時苦痛を忘るゝことが出來る、是を用ゐては生命を縮める、身躰が續かぬと知つて居りながらも止めることが出來ない。今申す通り之を廢せんとすれば腹が燃る樣になるので、實に恐るべき毒藥で御坐います。果ては阿片の害の波及すると大層なもので、支那では凡そ四千万の人が阿片を用ゐて、此の恐る可き害を受けて居ると云ふ事であります。然るに印度の英國領分では、之を繁



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

殖せしめ之を支那地方に賣り附け、そして彼れが金を取つて儲けて居る。英吉利領にては左樣な毒は飮んではならないが、支那に持つて往くなら善いと云ふ樣な譯で、誠に、自分の處の子供には毒を飮ましては惡るいが是を隣家の子に賣つて金を取るなら搆はないと云ふ樣に成つて居る。實際其の惡事を英吉利の人民が爲して居るから、英吉利人は飽まで利益の爲めなら惡事を行ふと思ふは無理ではない。故に日本人抔も矢張り是等の事を聞て、西洋諸國の人は利益さへ有れば何んでも遣る、實に怪しからんと思つて居ります。私も實に此事は怪しからんと思ひます。併し其怪しからん事が、英吉利全躰の有樣で有ると思へば大變に過まります。如何にも支那の政府では、最初は種々に力を盡して之を止めんとしたが、其時は遂に此毒を支那に賣り附けられて仕舞つた。さうして今では四千万人も此の劇毒を受るに至つたが、併し今日となつては如何でありませう、啻に之を止むることを爲さゞるのみならず、政府は是よりして租税を取つて其費途に充てゝある位だから、最早毒の廣るのを止むる事が出來無い有樣に成つて仕舞つた。

若し人間に兄弟と思ふの感覺があるならば、支那人の爲めには日本人民も亦涙を流さなければならぬ、其哀れなることを見たならば支那人も日本人も是非共に是を痛論して止めさせなければならん。然るに之を放擲して置けばこそ、英吉利の惡覺が猖獗の威を爲すのも格別、無理ではありますまい。現に今日の日本人中には之を痛論する者は無い、支那人にても今は無い。然るに之に反して英吉利人の意志は如何であるか、來年か來々年かは英吉利と支那との交易の規則を入れ替る時である、則ち從來の約を解く期限であるから、此時に於ては英吉利人の前の社會が爲したる、阿片を賣り附けたと云ふ惡事は、取りも直さず英國人が世界に對して耻辱を受けて居るのだから、是非之を止めさせなければならんと云ふので、倫敦には毎週祈禱會を開き、之れが爲めに特別の新聞を出版して頻りに骨を折つて居る者があります、此の骨を折つて居りますのは英吉利人で、惡事を爲す人も是を止めんと盡力する人も共に英吉利人です。

三年程以前に死したる英國の貴族に「シャステスベレイ」と云ふ善人が有つて、三十年前國會に出て、此阿片商賣を止め度いと云つたら、英吉利人は「馬鹿な事を云つて居る」と笑つて、當時は之れを惡るい事と思つた者は無かつた。然るに夫れから三十年后の今日に成ると、最早英吉利でも是れは惡事だから如何に金の上に利益が有つても廢止しなければならぬと云つて特別に雜誌を作り、人民中にも阿片を賣ることを止めると云ふ契約を爲すなら夫れで善いが、若し左もなくば國會議員にも撰むまいと云ふ程に奮發して居る者があります。

是れが私の度々外國の事情をお話しするときに申す、善惡の戰の塲合で有る。善惡が戰つて善が勝てば其の國は愈よ繁昌し、惡が勝てば其國は必ず滅亡する。昔の事を尋れば歴々として善が勝てば惡が亡び惡が勝てば善の滅びたのが解かる。三十年の前を顧れば「シャステスベレイ」侯の發議を笑つたのですが、今日英吉利の人が此の雜誌を讀み此の祈禱會に列つて、歎いて居ります處を見れば、三十年前に照らして今日は善の分子が殖ゑて來たと云ふことが知れる。こは即ち英吉利の進歩の有つた處です。だから一部の惡人があつたからとて其國は殘らず惡、一部の善人が有つたからとて其國は殘らず善と云ふことは出來無いが、善の分子が殖へて來るか惡の分子が殖へるかを見て以て其の國の盛衰强弱を判斷するのが穩かで、文明の國とは則ち善の分子が殖へたるの國である。故に私は東洋西洋の文明の位を比較する時は、力が强いと云ふよりは善の分子が勝て居ると云ふが一番穩當の見方であらうと思つて居ります。

若しも世の中に善惡の戰が有つて、善が勝つか負けるか、一人の上にも社會の上にも分からなかつたならば、人の善に進むと云ふ道は絶ゑて仕舞い、其の人は善を爲すの望みも無くなつて仕舞い、其行ひは總て犬猫と異ならない樣になる。然るに幸にも世の中には變ずべからざる處の道理の標準が有つて、善は一と度負くるも永久の上には必ず勝つと云ふ、則ち神の立てたる變ずべらざる規律があるから、人が善に進むことも出來、善に移ることも出來るのであります。

凡て國人の行爲に依て、其の國の繁昌と不繁昌と云ふ事が能く解かる。英吉利の善人の組合が申すに、支那に賣り込む其の阿片の租税を取つて居るから、其の商賣を止める事は出來無いと云ふは誠に分からんことを云ふので、印度の國が大層恐ろしいのハ魯西亞が攻め込むと云ふ一條で有る。英にとつてハ政治の世話も法律の世話も、非常の金ハ入らないのだ、只外寇を畏るゝよりして軍備に一番金がかゝる。然して其の之に關りする國ハ何處かと云へば支那である、今若し支那との交際を親しくするときハ魯國を防ぐに大なる援となりて魯は印度を奈何ともすることハ出きない。然らば兵備を減じて印度の費用を少くし、阿片を止めて租税を減する代りにハ、支那に對し信を以て交際すると云ふが必要である。一方にハ惡るい筋から金を得ず、一方にハ支那の人情が英吉利人ハ誠に善いと云ふ樣

に思ハしめるのが得策である。徒に藏物を貸り租稅を取りて不信を隣國に寫し、以て他の大國を恐る丶抔と云ふのハ、世の中に信用の無い人のする事で、卓たる君子の風ある人の術めにも爲すまじきことであると。是れ俗人の見、商賣の見より言へば實に迂濶の說の如くであるけれども、私ハ之を以て至極穩當なることゝ思ひます。若し人間の社會に於て、交際の社會に於て、道德が必要であるとすれば國と國との交際に於ても亦、其の信用其の道德が必要であらうと思ひます。

左なきときハ先づ第一に斯う云ふ恐れが起る、印度の側に緬甸と云ふ國があります。此頃英吉利の支配に成つたから從來の緬甸人ハ今ハ英吉利管下の人民と成つた、所で大變に困つた事が出來た。其の困つた事と云ふハ、他國人ハ阿片を飮でも善いと云ふのであつたが、支那人に毒な物なれば無論英吉利人にも毒でなければならぬ。然るに阿片と云ふ者ハ今申しました通り、飮み附けると酒を飮むと同じく止められない、惡しき習慣ハつき易い者だから、遂に大に緬甸人にも此の害が傳染して、惡るいと制しても之を防ぐことが出來ず、英吉利人ハ恰度汝に出る者ハ汝に還ると云ふ如く、自ら我國の害を蒔いたと云ふ。如何にも人に惡を爲して已れに善い事ハない、人に惡をなせば廻り回り廻つて自分の害、國家の害になる事ハ止むを得ないので、是が私の言ふ善惡の戰で、善ハ必ず勝ち惡ハ必ず敗ると云ふ社會の動かすべからざる原則で、善にハ善の結果、惡にハ惡の結果を得る凡て斯の如き有樣で御座います、此の理の動かざればこそ人間にハ望があると私ハ考へます。今日歐羅巴人の中に「チウトニツク」人種と云ふがある、（英吉利日耳曼の如き）又羅甸人種と云ふがある（佛蘭西伊太利葡萄牙西班牙等）小別すれば種々に別れて居るが先づ歐羅巴全躰を分てば一ハ日耳曼人種、一ハ羅甸人種である。此に奇態な事にハ羅甸人種ハ段々減つて、縱令增すとハ增すとしても彼の日耳曼人種の割合に增さない。巴里の人口を見ましても殖ゑる事ハ殖ゑるが、其の地で產れ育つて殖ゑるのでハ無く、氣候が好くつて土地が良いから、他國の人や地方の人が巴里に這入つて來るので、土地に生れ育つて殖ゑて來るのでハない。其他の羅甸人種たる伊太利葡萄牙西班牙の人種の如きも同じく思ふ樣に殖ゑない。然るに之れに反して日耳曼人種は御承知の通り、地理を說くと英吉利の土地は我日本より狹まく、現在英吉利の人口は三千六百万斗りで、日本よりは少ない、本國は箇樣に狹いが何れの方に廣がつて居るかと云ふに、東半球には墺地太利亞から印度にかけて、英吉利人其の多きを占めて居る。

又西半球の亞米利加には如何で有るか、取り譯け北亞米利の殖民には此人種が多きを占め繁昌して居る。加奈太領に於ても羅甸人種が廣まるか、但し日耳曼人種で有るかと云へば、日耳曼人種が多いと云ふ樣に地球上の不毛の地を開き行くの多きは何れかと云へば又是れ日耳曼人種である。斯の如き事は人間の技では無い、一方の人種は段々と殖ゑ、他の一方の人種は人數の上に於て勢力を失ふ柄の事です。殖へることは殖へても他の人種と比較すれば殖へないと云ふは、何う云ふ譯であるか誠に奇態の事です。夫れならば此の日耳曼人種のみが、自ら廣まる樣に方々に出掛けて往くのかと云ふと、さうで無い、亞米利加の「カナダ」を見ますと、是れは最初に佛蘭西の人民が取た地である。然るを其の後英吉利人が戰をして取つて仕舞つた、故に是亦英吉利人が「カナダ」に廣まつた有樣です。合衆國の北の方及び墺地太利亞抔も、矢張英吉利人が殖へて居る、印度も、佛蘭西と英吉利と共に這り掛けたのだが遂々今は英吉利の有に成つて、誠に奇躰の事である。一方の人種は次第に廣まつて往き、一方は夫れに從て共に進むとが出きずに減つて往く、此事に就ては學者の說も色々御座いますけれども、私の考では一つの善の結果であると、箇樣に私は考へたのである。羅甸人種の佛人と日耳曼人種の英人とは、共に亂暴狼藉を以て古來勝つたり負けたり致したのだが、同じ亂暴の中でも細かに社會を組立つた分子の分析を致して考へて見ると、成程日耳曼人種が世の中に廣まるべき強い道理があると思ひます。夫れは何かと云ふと、大凡そ世の中の人が、其の國を去り餘處に往つて事業をするには、其地を以て我故國の如くに念ふと云ふの心が無ければ、決して之を開く事は出來ない。昔し日本の樺太嶋へ露西亞が段々押掛けて來ると云ふので、幕府では人を遣し給金を遣つて日本人を植へ附け樣としたが、日本の人々は何うしても其處に居られない。遂に樺太嶋は露西亞の有に成つて、露西亞の人民が住み込む樣に成りましたが、此の時に種々なる方便を以て或は金を與へ貸を助けたが往けない、若し是が飽く迄も、日本の人が樺太を以て吾が子孫永久の住處故山であるとして居たならば、或は日本人が殖へたであつたかも知れぬ。然るに氣候が替つたとか云ふことで、或は歸る氣に成る樣であるから、遂に此の國が露西亞に歸した有樣であるが、若し其處に往つた人々が子孫永住仕樣と思つて居たならば、段々殖えたと思ひます。詰り其處を永久の住處と仕樣と云ふ念が無ければ、決して人種と云ふ者が廣まる者で無い。一つの事業に就ても其の通り、西洋諸國が東洋に役人を出す

七

に就ても、公使館の役人とか領事館の役人とかも、東洋に永住仕様と云ふ考で遣つて來るから十年も十五年も他國に居て、そして其事業に差闘を起さずに出來る。然るに若し三年か四年で本國から呼び戻す、少し居馴れて物が分つて來ると又新規な役人が往く樣な譯では迚も役所の事務は上らない。商買上の事でも政事上の事でも此點は更に異ならんです。印度の近年著るしく開けましたのは、多く英吉利の人が永住の考で、或は木綿を植へ或は茶を植へて此綿や此茶を以て英吉利の使用にあて樣と云ふ考で、彼の比馬剌山の麓に長き年限を費して耕耘を事と致しましたからです、斯う云ふ工合に一事をなすにも、其事に就て一生身躰を之に任すると云ふ位の元氣がなければならぬ。況してや國が其國の人民を植へて三年か四年たてば其の功を見たい、其不毛を開きたい抔云ふことは迚も出來る話しで無い、是れが即ち「チウトニツク」と羅甸人種の違ふ所であると思ひます。

佛蘭西人の氣性では之れは六ケしい、是に反して英吉利人は到る處家族を作つて、それに住む樣な氣性がある故に墺地太利の樣な處に引移つて、其處で婚姻もして全く墺地太利の住民に成つて仕舞ふ。是れに依て早く一家の有樣を爲し、五十軒百軒と皆此の如き有樣となり、其國は誠に己れの本國と思ひ、其の土地に固着して自ら其の自治の事業を務めるから、從て政事上の事も捗取ることと思ふ。若し其の本國を忘れやらず、其處に居るのは只稼ぎに來たと云ふ位に考へて故國より外に良き國は無いと云ふ樣な考であつたならば、決して其處に居り附く事は出來ない。必ず元に戻るの念が先立つに相違ない。日耳曼人種就中英吉利人は、新に住む國でも事業を企てた處でも、自分の國と思ふて働くから次第に繁昌も進んで來る樣に成るが、佛蘭西人は之と倂に種々の方便を盡しても何うも英吉利の樣に出來ない。是は政治法律の違ひでなくして、人種の樂む處に違ひがあるのが重もなる原因と思ひます。

夫れで私が英吉利に旅宿して居る中に、家族の中に味を持つて居るのに敬服したので有ます。英吉利の人は戶外の遊を好んで、戶外にごむ球を投げたりする樣な此の遊びは大層に好みますが、是と同時に家族が室內の樂と云ふ事を重んじて是れを樂んで居る。爰に二つの人種の異りと云ふは羅甸人種は女を尊ぶ事が少ない、日耳曼人種は基督宗教の廣まら無い時から女を尊ぶの風があつて、大に家族の發達を助けましたが、此の家族の發達が今日万國を開くの基となり、是が此人種の大に蕃殖する原因と思ひます。此人種が基督の宗教を奉じない間は道理も何も知らなかつた。然るに其人種の性質として、人間は平等なりとの考が有つて、女を侮らず却て女を高めると云ふ性質が日耳曼人種の心の上にあつたから、一家の有樣は羅甸人種とはすつかり違つて居る。羅甸人種は何う云ふ譯か、未だに其の懸念が發達しないで、女を玩弄物の樣に考へて居る所がある。然るに十九世紀になつて何れも昔の野蠻の時と違つて、是れが國の發達に要素であると、頻りに勵ましますけれども、暗に神の意と合したる家族の發達に對しては羅甸人種と日耳曼人種とは違つて居る。其の一例を擧けて申しますと、英吉利の如き日耳曼人種の國に於ては「ホウム」と云ふ言葉があるが、羅甸人種には無い。「ホウム」と云ふ言葉ハ家內と云ふ事で、一家の中の有樣を顯ハした言葉であるが、是ハ羅甸人種に無くして日耳曼人種にある。「ホウム」の樂みがあればこそ人々が居を移して何處に往きても團欒して樂むことが出來る。是れが若しも芝居とか自國の舞蹈とか華麗なる事が第一の樂みで有ると云ふ國でハ、一家族と共に他國の田舍に往つて樂む事ハ出來ない。芝居や舞蹈の如き樂みハ華麗なる所に限りてあるが未だ開けざる所にはない、芝居とか音樂とか云へることを以て無上の快樂と思ふ者ハ、己れが故國己れが繁昌の鄕里に歸ろうと云ふ人情に制せられて一時の快樂ハしても、一家團欒の樂みを到る處に得て、毫しも其の樂みを更めずに往くことハ出來ない。華麗なることを樂むものハ何れにも多けれども若し以上の二つの人種を較ぶれば「ホウム」の樂みを樂むと云ふに至つてハ日耳曼人種の固有の有樣で、羅甸人種にハ此の事實が乏しい。故こそ其の國ハ一時の兵隊の屯とか一時の戰爭とか云ふ樣な時ハ天涯の國に於ても日耳曼人種と競ふことハあるなれども、長く其の土地を開き、永く一家の樂みを維持して第二の本國を造り出すことハ出來無い。一家の盛衰一國の盛衰も此一點の異なる所より來るとハ實に驚くべき結果と言ハなければならぬ。詰りハ人間ハ平等なる者で、男として女を侮るべからずと云ふ事ハ神の明教によりて得ざるも日耳曼人種の思想行爲暗に古くより此の教へに合して居つたが爲めに果して此の如き結果の出來たものにて、其の往く先ハ大河の流を爲して、今日の文明に於ても、色の替つたる羅甸人種の繁昌と日耳曼人種の繁昌とハ其間自ら異る樣になる。是に依て考へ見ても、道理に悖つたる者ハ、迚も之に列ぶ事の出來ないと云ふハ、明かに古今變ずる可からざる事で、神の教への結果原因ハ固く結びついてある者と私ハ考へて

居ります。

尤も私ハ英吉利に在つて、家族の有様ハ能く世の中の事業を助けるのに感服しました。若しも私が虚言を吐て他を欺けば、欺き得る程に人々の事を能く信じます。故に能く信ずると同時に人々を能く助けると云ふ精神も亦大變強い。一家の助けに於て私の大に感じたることハ、私の倫敦に居りました時ハ先づ、寒むい事も暑い事も有つたが少しも煩ハなかつた、然るに少しでも旅をすると直きに私ハ喉を痛めたり、瘻痲質斯を起したりして困つた。長く蒸滊車に乗る譯でもなく、滊車は道も能く附いて居り早くもあるから、一日か二日も乗りつゞくれば隔から隔迄往かれる位、其の位の旅をしても私の身躰に變化を起したのですが、是れ則ち住で居る家の有様によるのです。私は或る老婦人の處に同居して居ましたが、此人は學問の上に就て尊敬を致す程のものでなく唯私は其人を愛する點に於て、成る程是れが眞の英吉利婦人が人を助けるのであるかと云ふ感じを起した。私が參つた頃は自分の用事を漸く曉し得る位ゐことで、言語に於て實に不自由でも有り先方の人は更に日本語は話せず、此の間に於て私を助けるには先方は餘程面倒で無ければならぬのに、私の身に就て身躰の健康を保持する事の親切なる、實に看病人の傍ばに居る樣な心持がして居る。季候の變ずることでもあれば、頼まないでも服や其他の世話を遣つて吳れる。用の手簡も私の遲い英文を書いて居るより、頼めば直ぐ書いて吳れる。果ては先方で其の用事を聞て吳れる位であるから、其處に宿つて居る時分には私の健康を維持し、私の爲す可らざることも以て能く之を爲し、英吉利の有樣を見ることが出來、又恙なかりしの助けは此の一人の同居致した英吉利の老婦人に在つた事が多いと思ひます。

茲に至つて私は、隱れた所の英雄の事業を想ひ起します。歷史に殘つたのは輝く所の事業だけれども、其の輝かない處に居りて國の運を維持し、社會の上に顏を出さゞりし英雄が幾らあるか知れない。私は英吉利の社會は、最も女の力に在ると云ふ事を知りました。して見ると一國の盛衰に婦人の力あることは知れる、功名を競はずして眞の道に依れば、求めずして國の繁昌を期することを得ると云ふ、神の裁判は實に驚くべきもので、功名を求めないでも其の道に適つた者は、技藝にもよらず才智をも頼まず、巧みを競はず智惠を働らかさず、一身を清くして以て道に合はんとし、人の人たる道を盡した者は、求めざるに歷史上に英名を振輿し光りを輝かしたる例がある、今私はまだ生きて居る有名の「フロレンスナイチンゲール」の御噂を致しませう。

三十四年前で御座いますが、英吉利と佛蘭西とで魯西亞を攻めた事がある。此の「クライミヤ」の戰爭と云ふのは、近代の名高い戰爭であつたが、當時の魯西亞の帝王「ニコラス」と云ふ人は「犯せるなら犯して見ろ、我邦には冬と春の將軍が有る」と云ふ事を申した事が有る。それは魯西亞の領地は極めて寒國であるから、冬から春の始めに於ては他國人の滯在し得ざる程の季候であるからです。左ればば長き間英吉利と佛蘭西が「クライミヤ」を攻めて居る間には、道は遠くして兵糧も手廻らず、戰ひで死だ其上に、手負人の手當も充分ならずして死に就く者が夥しかつた。今日は有名にして、誰れも知らぬ者の無き「ナイチンゲール」孃は、此時十八九の少女にてありしが、其前に看病婦の事を修めて創傷の療治方も知つて居たが、此の如き若き女に似合はず奮然として、妾が戰地に赴きて看病の事務を執らふと申し出た。此に於て同志を募り氣候の惡しき戰場に赴きて國家の爲めに身命を捨てたる病人を哀み介抱し、假病院の樣な者を作つたが其の誠の志に感じ、英國人も奮興感起し又各國の人も之に感動しました。此働きは今赤十字社と云ふあの組織を完全に至らしめた一つの紀元となりたることは能く人の記臆して居る所のお噺しである。此の「ナイチンゲール」は左迄逞ましき技藝の勝れた所の人でも無い、只一片人を愛する誠實の心が天意に適ひ、「クライミヤ」に打て出でたる其の時の將軍の功よりも、寧ろ此のかよわき身躰を以て戰場に赴きたりし「ナイチンゲール」の芳ばしき名が歷史に殘つて居ります。今でも此の人は生きて居るが、氣の毒なるは餘り劇しき働きをなして、夫れから病身となり、今でも病人の樣に成つて世の中に出て働くことは出來無い。併し其の名は實に英吉利の社會のみならず、萬國に迄響かして長く高名を傳へて居ります。

此の「クライミヤ」の戰爭に於ては、佛蘭西人も英吉利人も、亦魯西亞人も互に、殺し合つたので將軍の中には軍略に上手と云ふ名は殘つては居る者があり、彼の宰相の「パメルストン」伯と云ふ樣な「クリミヤ」戰爭に强かりし名もある。「ナポレオン」三世の英名も殘つて居ますが後世に何の益が有つたかと云に、人を殺した結果より外には何も無い。只人間が毆き合つた丈けで道理の眼よりして之を見れば、其功を立たのは以て功と爲すに足らずして更に慕はしきことは無いと思ふが、之と事かわりて憐む可き處の病を救ひ、傷を治めし所の「ナイチンゲール」の慈善と云ふ者は、唯々名のみならず其仕事の爲に赤十字社の今日の進歩を助

何の才智がある譯でも、何の藝があると云ふ譯でも無く、實に尋常一般の人で、看病婦の事を學んだ丈けの婦人と私ハ思ひます。其の他の事に於てハ文學上技藝上共に名無かりし人であるが、只此の「クライミヤ」の一擧に其名を史上に輝かし遠く東洋の日本に迄及ぼして居る。此の功績の結果ハ依然として殘つて居る。此の人が恰度私が英吉利に居ります中に蘇格蘭の友人に贈りました書信中に「凡そ世の中に眼を關する處の國の安危人の大業ハ、遠く現ハなる所にあるのでハない全て人の目に附かん平生日々遣つて居る處に國の安危人の存亡ハ懸つて居る、故に人ハ他の眼に附かん處でも、爲すべきの義務ありとして爲すべき者である」と云ふことが言つてある。其の中の一例として又斯樣なることを言つて有ります。「人の料理をすると云ふことハ誠に詰まらん事で尋常の人、誰でも遣れる事だ、併し此の料理に依て一家族の愉快不愉快と云ふことが出來て來る。それによつてホームの快樂も增すことがあり、夫れに依て人の健康を助けて其の到る所人民の健康一國の健康となる事があるから、如何なる細事と雖も是れを爲すべきの義務ありとするの觀念ハ、人間の大切なる事である」と。私ハ此の手紙を讀んで、流石に史上に名を揚げて、愈よ世の中に有益な結果を顯ハした人ハ、又違つた所のある者であると感心しました。

それ故に大凡そ世の中の功業ハ赫々たる花火の如き者でハなく、人も知らざる其暗々たる中に於て、國の基礎を助け國の繁昌を助ける者が多い。其の第一點ハ則ち望で有る、善を望む者ハ必ず其善を貫く者であると云ふ望みである。世の中に善惡の戰爭ハあるが、善を爲して決して惡の結果の來る者でハない、則ち人間ハ一事一業爲すべきの義務を天より受けて居ると云ふ、此の觀念より萬事萬物に推及するので、決して私ハ一時の計畧若くは一已の藝能とか、是等の些々たる道具立の爲めに一國の繁昌を受くることハ六ケ敷い、寧ろあらゆる才智を有益ならしめ、其の才智をして光りを放たしむる丈けに國民の務むると云ふ、其一點にあらうと私ハ思ひます」。私が旅行したる上にて見聞したると、及び豫て世の中の事に感じたる則ち社會にハ動かすべからざる一定の道德の原則があると云ふことを申述べて今日の招聘に答へたゞけであり升。

## 批評

### ○露伴子の「風流佛」　其川子

「風流佛」の出現ましませしは西鶴以來の一現象とこそ申すべけれ。かくばかり議論まち〳〵にしてサカレー、ヂッケンスとのぼせ上りたる世の中に澆季をも見棄て給はで慈悲の眼を垂れ給ふこと有りがたし。今の世の中大に偏頗にして西洋主義の益々盛んなるは終に日本從來の文物を盡滅せんとす。畫法を喋々して應擧さへも知らず文學に口沫を飛して芭蕉さへも味はず。唯西洋の格言と人名を並べて美術をも文學をも立派に論じ得らるゝものとなし、油畫を標準にして狩野圓山を罵りポーエムを基礎にして和歌俳諧を笑ひ、苟くも油畫たりポーエムたれば善惡混淆して賞讃措かず、もし和畫和文たれば一抹して罵倒す。嗚呼、此偏頗ある文學論者多數を占むる今日の文壇は抑も幸と云ふべきや、將た不幸として弔すべきかや。此邪說百出の中に「風流佛」の出現ましませしは末法の盡滅を防ぎ有漏路に迷溺する衆生を救ひ西鶴宗に歸依せしめんと彌陀に本願を立てゝ五塵六欲の風を拂はんとし玉ふや。尊とやわれも西の空に光華美はしく白雲に乘たる一體の御姿を拜み

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

參らせては渴仰の心はいとゞ盛んになりて妄執の念はそゞろに淡らぎ、凡俗の淺ましさ——邪説僻見に惑ひて人知らぬ罪障を作りても、焦熱大焦熱の苦患を免かれ、隨縁眞如の波立ちたる實相無漏の大海に菩提の纜解きて、彼岸に到るの心地ぞする。是ぞ狂言綺語をもて讃佛轉法輪の眞の道を敎ふるなるか。作者の筆力。玄の又玄摩訶不思議。

「風流佛」は日本文學史中に特筆すべき大文章なり。文字は西鶴より出で、しかも風來の分子を含めば寧ろ西鶴の情を缺くも氣燄万丈の力あれば、世間通常の——虎を畫いて猫に類する——ニセ文と全樣に語るべけんや。中にも第九第十兩回の如きは絶世無類の好文字にして、馬琴爾來若くはサカレー拜崇の人々より見れば論外、公平なる眼をもて評すれば一言一句の非難すべき點やある。嗚呼、西鶴歿後二百年初めて此絶好文字あり……天未だ斯文を滅せず。

主人公珠運は佛師、女主人公お辰は花漬賣。いづれ尋常立案の外に出でたり。東髮の令嬢が＝なくッてよ＝のあどけなき詞の自在なる操觚家が及ぶ處にあらず。宿屋の主人吉兵衛の義俠と滑稽は西鶴が好んで用ゆる處にして作者其神髓を得たるは妙腕自在恐るべし。五十四頁に、

「罪のなき笑ひ顏して奇麗なる天窓つるりとなでし」

又八十一二頁に、

「此日本一果報男女(中略)今の世の勝賴さまチトお驕りなされ」とある如き西鶴其まゝと云ふべし。

さは云へ是等は先人を學びしに過ぎざれど、唯作者が意匠の最も斬新なるは其愛婦を佛像に刻むの趣向なり。わが知人某の曰はれしには強ち先例のなきにもあらずとか聞けど、兎にかく超凡のものなり。殊に一度は花衣を彫りて更に一輪削り二輪削り終に裸體の像を刻み出す趣向は恐らく是までに見ざる處にて最も超凡と云ふべし。

然るに末段に到り天に昇ると云ふ結局になるは、從來の陳套を襲ふたるものにて面白からず、なほさらあちこちにて駝鳥の羽釵冠に鮮やかなりとか錦の御帶金色赫々たりなど評判あるは先年の西鄕星めきて大に拙なし。こゝ今少しの考案あらまほし。

兎まれ絶世の奇作、明治文學の大現象とも申すべし。新著百種の中にあるも涙の故智を襲はず——作者の見識。さはれ作者の曰く書あし、そも此小説の主眼は何ぞ。われ作者に代て申さん——此小説の主眼は木曾路と禪語。呵羅々々喝。

○天囚居士の「小夜物語」及「双鴛鴦」　ふ、　ち、

天囚居士が「屑屋の籠」は忽ちに居士をして日本のスウ井フトならしめたり。一個の豪快強固ある筆は恐らく明治の風來ならんかと思はしめたり。「小夜物語」を讀んで更に居士が筆力は中々一方にのみ局促ならで時代物語ぶりにも長じたる事を知れり、又「双鴛鴦」を讀んで愈々居士が社會小說躰にも達するを悟りたり。而して余は大に疑ふ――「小夜物語」も「双鴛鴦」も共に模倣にして先人の範圍をよく脱せざる事を。

○謹んで女學記者に謝辭を呈す　松羅堂主人

余も何ぞ代言人風の議論を好まんや、判斷を大方の讀者に任するは余の大に欲する處なり、唯數言を陳して記者が懇答の勞を取られしを謝す。竊かに怪しむ、余不才庸劣にして常に女學記者を誤まるを。其初め一々末節に就て質疑せしに=要するに主人は余が一小說の精神に付て可否する處なく=云々と曰はれ、末節に喋々するは本志に反する如くなれば余も口沫を飛して細節を論じ枝葉ハ枝葉を生じ終に根基を談く離るゝを憂ひ、所謂女學記者の說の精髓を質疑せしに不幸にも=是非論外に游り來れば=と答へられたり。嗚呼頭を押ふれば尻胸にありと云ひ胸を押ふれば腸は頭にありと云ふ、抑も如何にして此要處を求むべきや。記者の說變幻自在にして所謂時に從ふは常と云ひながら、かくまで記者の眞意ある處を誤まらんとは――余の不才庸劣を歎ずるの外なし。

總て事を論ずるは精細深徹なるべし、苟くも無責任の議論を大雜誌に說くは記者の取らざる處なり。故に余は猥りに後進を以て依田高橋等諸先生の一二の評を擧げて極めて寬大即ち不充分なる批評の例となせり、是れ忌憚なきの甚だしきものと雖ども畢竟は女學記者の更に所謂狹量なる批評の例を擧げられん事を望みしなり。

圖畫の輪郭を論ずるは可なり、「畫にあらず」と斷言するは惡るし――とは理あるに似たれど、もし少しにても畫の形をなせば死にかく三才兒が勝手氣儘に畫をぬりたるものをもて畫となすべきや。記者は實事物語を小說にあらずと信ずる故に=實事物語を承る心地して到底小說と思はれず=と云ふは余何んぞ咎めん。他に小說に異論ある人にして其奉ずる處を以て小說と目すべからざるものを小說にあらずと云ふに全じければなり。

細密に評するは記者も望む處なりと曰はれしが、余は偏に恐る、もしさらに細密たらば記者は愈々狹量なりと曰はれんことを。

智性と道德との別勿論然らん。然れども如何なる時に智性上より評し又道德上より評するや。もし道德に於て制禁すべきものたれば道德上より評するは勿論ならんに。かの明治藩婦傳の如きは何故に道德上より制禁せざりしや。よしや不純潔なる筆をもて畫きし猥褻の文字ありとも反省せば女戒の一端となすべきや、而して著者の意は純潔なるもなほ「くされ玉子」は反省するも女戒の一端となすべからざるか。

寬量と寬大とは全一なり、寬大の不充分なる事は余も元より全說なり。記者は自ら智性上に於て寬量なりと云ふ。然らば智性上に於て不充分なる評を以て記者は滿足するや。

余がカイ子氏の說を擧げたるはカイ子氏の一家の見は記者が一家の見と異なりたるを云ひしのみ、必ずしも余と全說なりと曰はず。但余は世人各々奉ずる所あり其奉ずる處を以て他の奉ずる處を罵るは偏僻の人たるを免かれずと云ひしなり、故に余は奉ずる處に準據するを不思議なりと云ふ。

既に結構したる小說に於て實際派なしと云ふ、何たる膽販の判定ぞや。爰に到つて余は頗る疑ふ、記者は果して多讀せざるが故に迷はずと信ぜらるゝや、將た多讀せしもなほ迷はるゝや。ヂッケンスの諸著は疑はれしや、殊に佛蘭近代の小說は所謂實際派にあらずしてリチャードソン或はスコット等と全一なりと判定せらるゝや。嗚呼――絶世の卓見、余は其卓見を披露せらるゝ勇氣に對し唯敬服と曰はまくのみ。

小說に對する余の管見は他日更に述ぶべし。爭論は爰に局を結んで大方識者の判定に任せん。謹んで女學記者に謝す、余が不明は常に記者の眞意を誤まりしを顧みずして一々回答の勞を執られしを。

　女學子附評、生は此討論に於て全勝なりと信ず、而して松羅堂主人も負けたりとは思われまじ、莊子曰く我之を是とし汝ち之を非とす、之を汝ちに正さんか旣に汝ちに同じ安んぞ正さん、之を我に正さんか旣に我に同じ安んぞ正さんと只だ大道に聞くべき耳。

# 雜録

## ○諷刺

ふ、ち、

憤怒せる議論家は未だ恐るゝに足らず、冷笑する諷刺家は却て恐るべし。彼は敢て怒らず、故に激せず。彼は好んで笑ふ、故に服せず。彼は奨勵するが如く喝采するが如く歡喜するが如く大悟するが如く、而して奨勵喝采歡喜大悟の間自ら一種の針を含む。時に笑ひ時に戯れ時に喜び時に樂しむ、其笑ふも戯ふるゝも喜ぶも樂しむも盡く外見美はしき金針ならざるはなし。故に諷刺家の戯むるゝ時は人疑懼し、樂しむ時は人戰慄す。一行の文字一篇の文章上將相大夫より下田婦野人に到るまでを動かす。胡澹菴の封事文天祥の正氣歌慷慨激昂すと雖も其悲憤は半文に値せず、東方朔が滑稽は却て帝王を補佐す。彼は恐れず、恐れざるが故に更に忌憚する處なく、蜜を食むの猴水を呑ましめ針を包むの眞綿をもて首しめ、笑ふが如く嘲けるが如く幻か影の伴ふと全じく曰はず語らず直言直諫す。彼必ずしもダイナマイトを投せず亂拳を下さず、唯尋常凡俗の文字を並ね其中に無形のダイナマイト或は亂拳を投ず。或時は頑固なる痼疾を療するの藥劑となり、或時は壓制なる政府を殪すの銃器となる。筆尖に鋼鐵も劇劑もなくして剛直なる御史大夫よりも亂暴なる壯士よりも遙かに幾多の人をして慚愧改悟せしむ。

諷刺に三種あり。一を分析的とし一を放膽的とし一を滑稽的とす。更に細別すれば無數のものとなれど千差万別にして是を部分する事極めて難し。アヂソン、スウ井フト、チッケンス、サカレー等皆全じからで各々一派の風あれば是を全一に論ずべからず。マコーレーがアヂソン論にアヂソン、スウ井フト、ボルテイアの三者を比較せしは最も巧妙にして肯綮に中りし事と云ふべし。日本にて諷刺に最も長ぜしもの春町全交喜三二三和京傳三馬自墮落風來等あり。是を部類すれば春町全交等の黄表紙作者は滑稽的あり京傳三馬等は分析的あり自墮落風來等は放膽的なり。共に別種の妙を備ふるものなればいづれも特殊にて甲乙すべきにあらず。

春町の作に「金銀先生榮華之夢」及「高慢齋行脚日記」あり。又三和が作に「天下一面鏡梅鉢」あり、いづれも時世を諷せしものにして大に喝采を博したり。後者の如きは時の執政極めて奇矯に走りたるを嘲けりしものとか。京傳が「江戸生浮氣蒲燒」、「三筋立客の生植田」等及び三馬の「俠太平記向鉢卷」等は此類なり。

寛政享和の頃敵討の本盛んに行はれ楚満人をはじめ敵討本を作り京傳までも二三冊の作をなせしが、此時三馬「無根草夢譚」を著はし、敵不討の趣向を立つて敵討の立案一轍に出づるを嘲ける、本文は元より其序文其口書其插畫其詞書凡て巧妙なる諷誠にあらざるはなし。妙實に爰に極まる。

京傳が洒落本、例へば「總籬」「しげ〳〵千話」等は天明の所謂半可通を諷せしものにて書中艶二郎馬骨等の人物は當時實存のキャラクターを摸せしものかとも思はる。

三馬が「賍計」及「客者評判記」は其作中傑出のものなるが何れも純然たる諷刺にして其他も同様なり。

自墮落風來の二人は放論して一世を罵倒し粗傲をもて優る事やゝスウヰフトに似たり。風來に到つては最も甚し。

今の世諷刺に巧妙なるもの篁村紅葉二葉亭露伴天囚等の諸氏か。議論家に於ては德富田口福地の三氏か。

篁村先生の「百圓札の附録」及「日本文學之三絶」最も面白し（共に讀賣新聞に見ゆ）。紅葉先生の返禮（文庫十九號にあり）も又面白し。要するに諷刺の筆は輕やかにしてとげ〳〵しからざる中に黄金の針きらく〳〵する様になりたし。風來の如き疎雜に似たれど自ら圓滑流麗にして彼のスウヰフトとは大に異なれり。實にスウヰフトの文は堅き地盤を走るが如けれど大に流麗を缺き諷刺の限界を越ゆる事あり。但しガリバル巡島記は畢竟滑稽の立案を眞面目に書したるなれば文に於て批評を加ふべきものにあらず、却て流麗ならぬスウヰフトの本色こそ最も適切のものなれ。

サーバンテスの「ドンキホテ」はガリバルと同様にて、曰はゞ我が黄表紙の最も進歩したるものならんか。

余は今の日本に純粹なる諷刺家の出でん事を望む、又諷刺家たらんとする人に流暢圓滑なる事アヂソンの如くならんを望む、針は諷刺家の最も尊ぶ處、望むらくは鉄の針より黄金にて針治の實効あらまほし。

十一寸月人

## ○フランクリンの勇

カーライル一日ミルボルンと語りし時談偶まフランクリンが龍動府に在りし比豪邁不撓の勇を以て府民を驚愕せし事に及べりミルボルン氏は幸にカーライルの談話を一字も遺さず記臆し居たれば我等はフランクリンの事績を窺ふとともにカーライルの常語に於てすら其不世出の文才あるを知り得あり。其語に云く龍動府廣しと雖も大凡そ貴國の人の最も興情を感じて敬慕の念を起さるゝに至つてはチエルシア近傍を措て何



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

そ他にあらんやそはベンヂヤミンフランクリン氏が遺跡あるの地なればなり回顧すれば今を去ると五十年の昔氏の未だ徒らに印刷工と爲て其日を微かに過せし比常に日曜日の午後には必らずテームス河岸に沿てチエン街を散歩せりとぞ一日偶ま友人と雜談して餘念なく來りしが不圖渺々たる水面を望見し佇立せり卒然朋友に對て謂て曰く余は克く這箇より龍動橋まで泳ぎ着を得べしと其時彼奈何にフランクリン游泳術に熟達したればとて龍動橋までは仍ほ五英里を餘すものを何とて然ることの容易に出來得可きかと思惟して却て快く許諾し直ちに賭を約せり然るに心中其暴虎馮河なるとを笑ひたるものゝ如しフランクリンは忽ち脱衣跳身見る間に早や遠く岸邊を離れたれば友人は脱落したる衣服を擁へ馳せて追從しけり此有様を見物せんとて聚來れる者踵を接す游きて較や龍動橋に近ける頃は兩岸恰かも人の山を築きたり鉄以て鍛へたる如き強腕は逆卷く激浪を截て終に河伯を驚かし難なく橋梁に攀ぢければ拍手喝采暫く大河に響いて歇まざりしとぞ。

○洪水と山林

洪水は勿論天より大雨の連下するゆえに起る、然れども其大雨の斯く暴下するは山林の調和なき故也、且又山林あれは其木の葉は一々に潤はいて降れる雨を留め、其根には降雨の水氣を吸入し、天より下る雨の過中を止め溜けども、山禿にして木なきときは降雨山より直下し、加之森林なきゆゑに山より川に流れたる砂積りて川底高くなり居れば水勢益々激流し、遂に彼の恐るべき洪水とはなる也、故に洪水の近因は大雨にあり、遠因は山に木少なきに由る、昔し蕃山翁能く此理を覺り近世の山林學者亦切りに之を論じたり。近頃センチユリー雜誌に出でたるもの亦左の如く說けり。

熟ら本邦の山林現狀を觀察するに實に心配に堪ざるものあり若し歐洲人未だ移住せず全土悉とく赤人の所有地たりしときは薪炭建築に用ゆる材木とて夥しからず耕作に供する田圃とても廣衍なる面積を要せざりければ隨つて斧斤山林に入ると頻繁ならざりしなり然るに一朝歐洲との海路拓けてより以來人口增殖百般の事業漲起すると與に大に國土自然の富源を毀耗するに至れり其被害の冠たるものは蓋し山林ならん乎公有山林にして幸に斧斤を免れたるものは唯太平洋近岸の地方のみならん而して吾人は此邊に繁茂する樹木が絶へず地中より水を引導して溪流を養ひ溪流聚つて大河となり末路に千里の廣野を豐饒ならしむる力あるを覺るに至つては愈よ山林の必要を感じて息まざるなり。

然れども此地方に於て當時未だ河水を利用するの道を悉さゞるが故に人皆米麥を産せざるが如くに見做せども決して左にあらず地味已に好し必要なる肥料元質を十分に含めり惟水なきの至す所なり假令年々多少の降雨ありとするも之のみにては到底廣野を濕すに足らず勢ひ乾凋せざる流源あつて之を補はざる可らず乾凋せざる流源は樹木鬱閉せる深山幽谷にあつて岈禿山に在らざるなり故に原野の豐饒なるは一に近傍の山岳に樹木の有無に因るものとす。

世人は多く樹林の農業に斯る大關係あるとを知らざるものゝ如し然れども其細根地中に錯雜して內に多くの腐蝕植物を含蓄するときは大雨來るとも悉ごとく之を流失せしめず其大部分は吸收保持して永く溪水を噴出するの泉源となるものなれば尤も經濟的の貯水法なりとす加ふるに山若し一本だも樹木を有たざれば高遥絕壁忽ち崩壞し砂石を流下して原野を覆ひ其地質を枯瘠ならしむるは數の免れざる所とす是れ樹根の地中に貫通して土塊を保維することなき所以なり山林の必要既に此の如し宜しく速かに保存の道を講せざる可らず云々。

## ○宮嶋政子を追懷す

巖本善治記

明治女學校の生徒に宮嶋政子と云へるありき、余が最初に之を知れるは明治二十年の六月即はち余が此校に來りたるの翌月にてありき、此月教員玉生女史靜岡に行嫁す、余幾多の女生と共に之を新橋停車塲に送るとき、衆皆な別を惜みて佇立連泣したり、既に烟失せ車の響消ゆるとき、何れも忙々として立去ると云へど、中に二女生の慟哭して起たざるものあり、余近づき之を慰さめ初めて其名を確知したり、此一人は即はち宮嶋政子にてありき。

爾來余は同子に注目し其行狀を窺ふに、起居溫雅、容姿優和にして万事に親切なりと見ゐたり、其同朋に對しては交はり眞率にして溫たかなり、其の後輩に對しては誘導甚はだ篤く何如に忙はしきとも物問はるれば鄭寧に教えたり、而して教師に對しては忠實至誠、事を苟くもせず、謹んで命を聽き好みて學に勉強したり、故に余は貞正信切の女生と云へば必らず此子を思ひ出せり。

然るに廿一年の七月上旬に至り、靜かに余が室の戶を叩きて音訪ふものあり、引見すれば即はち政子なり、其の溫淑として坐に就き敢て言ふ所を聞けば、余が監督法の是非に付きて忠告するなり、其の辭ば毫も憚かる所なしと云へども諄々として之を述べ言句悉とく眞情より出で、單に學校を思ひ、且つ余が一身に付きて憂慮するものなり。后ち數日亦其同志三人と共に余が家に來り、重ねて余に忠告せらるゝとき、友に先だちて斷言するものは即はち此子にてありき、余は此に至りて政子の勇を知りたり。

明治女學校に於て毎金曜日の講談會なるものあり、教師生徒交も立ちて道德脩身及文學上の講談を爲す、又毎日曜日の早朝に於て有志者會を開き余代りて宗教上の講話を爲す、此の兩日に於て常に出席し常に諦聽したる者の、一人は即はち政子にてありき。嘗て余れ人世の目的に付て辨ず、檀を下り來るとき、政子私かに余に就き問ふて云ふ、妹之より速記法を學ばんと思へり何如よ候はんと、余答へて云く、速記法は女藝に最良のものなり然れども君に於ては未だ之をしも學ぶの用あらじ、左れど抑も之を學びて如何に爲さんとせらるゝやと、時に政子爽はやかに答ふらく、妹に一人の約したる未來の良人あり、今ま艦に乘りて洋海を往來し靜考の時あらず、妹先生の談を承はりて感ずるを多ければ此后は常に之を速記して彼の人に郵送せんと、余感泣したり、然れども余が談は固より寫すの價あるなく、且つ此子身躰弱く日常の課の外に別に習業すべき程の壯健もなければ、固く之を止め、余れ時に臨みて君か良人に音信すべしと約しぬ。我國二八の乙女は時事に付きて言ふことなし、然れども政子が之を言ふや寧しろ誇る所ある如し、而して其の未來良人を慕ふの切なるや極溫の淑女に似たり、余が此外に相談を受けたると多けれども一々言はず、上記の一例によりて其情推知に余りあらんと思ふ。

政子常に云く、日本の女子は婚すると早く、學ぶと淺すく、世の爲に盡すと極めて少なし、妹不肖と云へども明治女學校を卒業せば、必らず一業を爲し、人間世に存するの恩に報ひ侍らんと、然るに嘗て余に寄するの書に云く、

母も病身にて妹及び弟多ければ万事に行屆かぬと多く御座います、かねて申上ました通り何事かを爲して世の爲に盡さんと思ひ升が、第一家の中の事にすら十分に助力するとが出來ねば何事も出來ますまい、特に內の事を棄てゝ外の事斗り思ふは總ての教へにも背くとと思ひ、之よりは先づ妹や弟の稽古に手助けし、母の世話しさを少しは救ひたく候へば、當分撰科生に爲りたく存じますが何如のものにや伺ひたく……

其の考へ方常に如此に實着にて敢て物事を大業にするとなかりき。今にて思へば之れぞ病氣の種にてやありけん、彼女は何事も苟且にする能はず、万事を鄭寧信切にし、且つ人の事は我身の事の如くに心配して苦念すると多かりき、故に友人の病めるとき、憂ふるとき等は泣く斗りになりて之を慰さめ、人の難義したるときは其有る物を棄てゝも助けんとする愛情切にてありき。既に肺病を患ひ床に伏したる中にも、西京なる新島襄氏亦た肺患なりと傳聞し、余と余が義弟とに書を寄せて適當の藥名を報じ越しぬ、余等直ちに之を新島氏に轉通したるに、幸わひにして此の病ありと云ふは謬まりにてありき。又嘗て余を招き床上に苦吟しつゝ、其の知れる出入人の娘の事を賴み、翌日亦た書を寄せて曰く、

……どうか早くさつぱり遊ばし升やう祈つて居ります、風は一番こわふ御座ゐますから決して御油斷遊ばしません樣に願ひます、只今も水をおあびなさるので御座ゐますか、風邪の中は余り御無理の事を爲さりますな、又おなほり遊ばしましても直にお初め遊ばすは御無理で御座いましやう、小妹の叔父は風を引かぬ爲め日に二度づゝ……

斯る事迄で人の爲に掛念せられたるなり。又本年一月の年始狀に添へて曰く、

……別封の金子は先頃勝さん（勝安房氏）が病氣見舞に御出被下ました時に小妹の本を好きなのを開たから何か取て來よふと思ふたけれど、夫よりは自分

で造いのを取れと仰しやつて下すつたのですが、本は皆さんに拜借したのが澤山ありますから學校の女子大學の箱に寄附致しましやうと存じて居りましたら今度ラマバイ夫人が作られた本が欲しうなりましたから、どうか一册お取り下さいまし、跡の一圓五十錢にて一圓は學校へ出し五十錢は同志社へ出す積りで御座いましたが、お秀(其妹)の友達に今年十四歳になりましたが父親なく祖母と母親が人仕事を致して小供三人を育て居りましたが今度其子を學校を下げて仕舞ふとの事で御座りまする……聞に忍びませんから學校へ出さうと思ひました一圓を其子へ年玉に……

此等の文辭も人に現はさんとに非ず、總べて其の爲したる事は一々余に報じて其是否を問ひたるゆゑに知らせ越せし也。

政子夙に基督教を奉じ、信仰甚はだ篤し、故に平生慕ふ所ろは純潔高尚の德にして日夜其身の罪念滅せざるを歎じ、痛悔屈勉して只だ善に移らんことを勉めたり、其の病中の作に係る左の二長歌の如きは、少さか以て彼女の衷心を現はすに足らん、但し此歌余が改削を要め來せしものなれど、今一々其の原句の儘を寫す、

其一

主よ願はくは、いと美き事を、聞けども爲さず、惡しきを見れど、退ぞけ能はぬ、此の罪深き、我身をも捨てず、すくはせ玉へ。

うゑかはく如く、眞を慕ひ、正しき道へと、進み行きつ、己れを忘れて、人をば助く、愛にぞみちたる、心をあたへよ。

其二

夕ぐれ時に、只ひとり、祈りせんとて、庭の面に、立出で見れば、新月の、木かげ高くぞ、登りけり。

登る氣如の、月影と、共に心の、登ばれて、万の物を、ながむれば、うれしき事ぞ、限りなし。

宇宙の万が、定まるを、見れば一つの、神ありて、此世の中を、皆すべて、支配する事、明らけし。

左れど我等は、罪ふかく、眞の道を、知らずして、幾日ぞ神の、御心に、逆らひしこそ、恐ろしき。

其罪人も、捨てずして、一人の御子を、をしみなく、與へ玉ふる、大神の、愛のこゝろぞ、尊ふとけれ。

一人の御子の、めぐみにて、罪深かりし、我をさへ、此大神を、アバ父と、たゝへまつるぞ、うれしけれ。

只此うへは、信仰の、いやが上にも、いやましつ、愛する父母や、兄弟を、神の御國へ、導かん。

父母兄弟と、諸共に、神の御堂に、あつまりて、我愛ふかき、大神に、讃美祈禱を、捧げなん。

嗚呼此の優和信切なる乙女、此の靜淑貞操なる婦人、此の孝心厚き娘、惜心切なる姉、犧牲獻身的の信女、溫愛掬すべき未來の妻、余が尤も賴みとし、尤も敬愛したる後來の大女學生は、一年餘日肺患に苦しめられて遂に永眠したり。

八月余れ細君と共に池上に遊ぶ、出途政子の家を訪ふに病あつく醫師に謝禁せられたりとて面會するを得ず、池上に在ると數日事ありて歸京するとき政子既に眠れり、直ちに馳せ至れば佛葬の棺車すでに調ひ居たり。

明治二十二年八月七日、宮崎氏父母の意によりて政子の肉體は青山墓地に葬らる、僧侶行き、香花並び、旗翻がへる、余れ愁蹌其後りへに隨つて送る、墓地に於ては僧侶經を誦み、屍夫土を掬れり、嗚呼政女の生犢夫に於て余が密涙を掬めりや否や。政子明治三年十月生る、此時に至り二十才なり、海軍少尉上泉氏に約あり、今春病床に於て婚を結ぶ。余れ此子を失なつて悲歎止ます、彼が書信を復讀して只だ自から勵ますのみ、

(臘物切斷の后の狀)……其時は最早や永眠に近き事と存じました、若し神を信じて居りませんならば何の程にか心を痛めたで御座ゐましやうが、實に平和を得られました、併ながら只悲しふ御座いましたは、神の命じ給ひし義務を一も盡さず、又十九年の間晝夜愛育を受け一方ならず心勞を相掛け、今まで一度も心を安め申したこともなく不孝に不孝を重ねますは、誠に罪深き事と存じましたが、先頃の御話しに、洋行の歸り際に死するも赤兒の死するも皆な神の其父母を導びき玉ふ此恩といふ事を伺つて居りましたから、假令ひ此まゝ眠りましても其爲め父母兄弟が此道を信じましたら、どんなにうれしく御座ゐましやう、不孝の罪も輕からんと存じ、只だ終りまで苦痛を耐へ忍び得るやう又父母が此道を信じますやうにと夫のみ祈て居りました……

實に左樣にてありき、海外留學の才子業成り歸朝して忽まち死する如き、又は綠兒一家親戚を喜ばせて誕生し直ちに死する如き、吾人は其死せしものゝ爲に歎ず可らず、彼等は旣に其一生を畢りし也、七十の壽と三才と果して幾千の長短ありや、若し朝たに道を行ハば夕べに死するも可也、只だ此等の死を眼前に見て毫も人世の大理を觀ぜざるものあらば、吾人は寧しろ此等の人の爲に歎ぜざる可らず、エルサレムの娘達よ寧ろ汝等が爲に泣くべしと、彼の可憐の人の死するは魁花の發射するが如し、之によりて人世の實相を示し、見るものをして大觀せしむ、故に結果を後に遺すの効甚はだ大なり、余は政子の死を悲しむ、然れども決して尋常の泣を爲さず。

# 兒籃

## ○船長のはなし　(下)

小舟を卸すと二人の水夫はこれに飛び込みラーキンも私も次で乘込みました私は舵を取て二人の水夫は力にまかせて櫓を押しますラーキンは傍に坐つて居りました私は大聲に

これ〳〵貴樣達はあの氷の塊の上に黑いものが見えるであらうあの氷の傍へ漕ぎ附けたら一月の給料丈けの賞與を遣・ふから……いそげ〳〵。

水夫は前日の疲れに十分弱はつて居りました、一生懸命に働た處で潮の勢ひ勝つ事が出來ません、とやかくなすうちラーキンは舟の遲きに氣をいらだて……

押せ〳〵……船長の賞與に二倍して遣るから……慈悲のためだぞ押せ〳〵

水夫等は夢見る心地……櫓をば押せども氣ばかりはやり最早十分に疲れ果て水夫の一人は櫓をはづし度々後へに倒れます今一人も十分に疲れて物のやくには立ちません

倒れてしまへ……船長よ櫓を取りたまへもう御互に漕がねばありませんソシテ二番櫓手の場所をサ早く〳〵

ラーキンの言葉に從ひ私は二番櫓手の場所をとりました、矢聲をそろへて漕ぎ出しましたが櫓桁は將さに燃えんかと思ふばかりに熱しました舟は矢よりも早く走りますその間殆んど十五分……しかし五六時間も働たようです

ラーキンさんまだですか……もうぢきに着きますか

モー直き〳〵……油斷してはいけません　船長！自分の子供がこの難に合たとお思ひなさい……

櫓は月の光を照りかへして劍の閃くようです……漕手は父の其子を救ふ思ひをもつて勵みます、不意にラーキンは矢聲をとゞめました私の心もハット思て……もうとても及ばないのか仕方がないしかしラーキンが言葉を聞て落付きました

靜かに……船長靜かに——モー一漕か二漕です

すると舟に或物が觸りました、ラーキンは小舟から氷の塊の上へ飛び上り私はその時立ちあがつて二人の水夫に氷より離れぬようにさせました、氷の塊の上に走て黑きものに近づき見れば先刻見たとうり二人の小供です、幼く見る子は年上とも思はるゝ子供の胸にいだかれて居ります……無慘にも二人供に息が絶えて……。

ラーキンは其肌にて一人の子供をあたゝめました私も今一人をそのようにいたしてよう〳〵と氣が確かになり小舟よりま



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

た本船に立ちもどりました何故この小供等はかく危き目に遇ひましたかと申すにこの子供は海岸で氷の上を走り廻りまたいろ／＼遊び戯れて居るうちこのような憐れなさまに墜たのだそうです、翌日私はラーキン君に向て

今日はドーデスチ、　ラーキンは答へて

少し腕が痛みます……しかしさのみの事もありません

涙を浮べて嬉しげです……アー義氣ある若者――

## 小說

### ○すみれ

若松しづ

#### 一　露を拂ふ姿

しづかに開きたる婦人は、やがて、

誠にありがたう座り升、しかし只今申上た通り、其思召にはたゞひとつのおこたへしか致すとが出來ませんから、どふぞ此お話はこれ切で……

紳士

止ろとおつしやるか？、サそこです、なぜ止る必要があるのでせう？、（こゝろもちやつきとなり）、あなたは私共の交際を快しとか、また僕を親友として幾分かゆるしてをらるゝ以上、申もくどい樣ですが、僕にとつてあなたは實に朋友中の朋友、尊敬する Womankind 中の the woman と明言して、かくも幸に始まつたフレンドシップをも一層さいわいに全うし度と云熱望を、おさつし下さらぬのがどふも合點が行きません、あなたは西洋風の教育をうけ、殊に米人に親友が多いと云て、米婦人の得意だといふcoquetryを以て僕を苦しめらるゝとは思へんです。

とゆかに一直線に眼をそゝぎたる婦人のかほを、ソトさしのぞく、此快活風の紳士の終りの一言に、勵まされて尚一層おもやかに、婦人、

私の最も敬する澤部さんが、數ならぬものをかりにも生涯の同伴者たるねうちありと認て下さる事を、心から謝して居る事は、申までもなく座りません、男子たるものが一人の婦人に對して若妻たれと申される時は、其男子一身の上から申さば其婦人を推して一國の尊位に請ひ登すに勝る榮譽を授くることと信じ升ものを、どふしてあなたの思召を、かりそめ事にうかゞひませう。

紳士、

なるほど、ホームを作るに非常の用心家と聞えたあなたに對して、恥ちらは敷輕卒にこふいふ事をいひ出すとは

出來ん理屈です、それゆゑこれまで久敷しのんで通例の交際を願て居たのです。

婦人、

サ其交際が私にとつては甚だ大事で、どふぞこれを長くつゞけ度存ますから、此思召は迚もおらぬことゝして、今までの通りに遊ばして戴ていたゞき度御座り升、箇樣なことが折角これまで熟した愉快なまぢはりを損ふこともあろうかと、甚だ氣づかふて居り升。

紳士はます〳〵嚴肅にあり、

どふもわかりません……が、何故お否みあさるかと强て詰問する權は僕にありません、しかしもふ一言申度事があり升、御承知の通り僕の歸朝後、幸に從事する事業のはこびもよく、供に働く人も僕の意見を信用してくれるので、維新前後とはちがひ、人才のます〳〵多くあらはれる今日にしては、先よくやつてのけると人はいふて居るそうです、しかし恕じひに米國で珍敷ほど全美したChristian homoに、久敷すまつて其恵をうけ升てから、歸朝して殆ど三年を經にも係はらず、ホームに關しての不滿はます〳〵ひどく感ずるです、さて其不滿を根だやし、僕を勵して一身上事業上におての根據と、聊か識認する主義を維持させ、最も愉快に(言葉に力瘤を入れ)此世の戰場に勝利を博させ得る者はあなたの外なしと確信するです、そこであなたが手もなく僕の請求を否まれるのを實に殘念に存ずるです。

婦人、

そう色々おつしやつて下さると、猶さら心苦敷なつて參り升、よしんば私に其價値のあるにもしろ、ないにもしろ、さまでに御信用を戴いて居るのです者を、どふしてあみ〳〵な譯がらで、此榮譽を辭することをいたしませう。

紳士、

それでは(熱心に)矢張どふ有ても、お否みなさるか?……さらばおいとまいたしませう、此上に女々敷者とおあたの輕蔑を買事は望まんです、(かたく結たる口もとに決斷をあらはし、ツト立あがりしが急にふりむき、滿面に婦人にむかひ)、僕は今夜當てベルリンでP.H.D.の學號を受た時にまさつて榮譽ある賜を申請やふとして參たものですが、其賜を授與する專有權は、一に其小百合の手に在のです、僕がそれを受る望は絕てゐ升か?(殆ど苦痛あるが如き聲の中に、箙に殘少き袁矢に眞情を籠て放しが、この氣高き婦人の





Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

心のまとを貫しや否や、兎にかく此英雄風の紳士、洒々落々世に處して毫もよどみなく、其滔々たる心術をさへりぎ止むるものは、よもあらじと想像さるゝこの人傑を、かくめづら敷までに感動させたるは、げに非尋常のことなりき)やゝ暫くありて、青み切たる顔を、ゆるやかに紳士にむけ、

婦人、
あなたはわたくしをお信じ下さるからには、箇樣に冷淡ら敷決斷に止まつて、一時あなたの御親切を損ふのも、心の誠實からだと申丈は、過まつて下さりますな、(終りの一句は殆どいのるものゝごとし)。

紳士、
眞野さん(余ほど落付る聲にて)僕は實にあなたのゆるしを願わなければならぬです、思はずあなたを苦しめた罪を謝し升、(湧出る情緒を漸く治め、冷淡をよそほひ)僕はこれから他出いたすつもりですから、暫くおめにかゝり升まい。

婦人、
左樣ですか?(訝しそうにあと何か云とせしがひかへたるおもゝち)……さよふならと會しやくする紳士へ三四歩進みより手をおぞそかにさし出し、紳士の手をしかと握りて、

婦人、
すみれの敬愛する友人の爲に、この心が常にわたしかいといふ事を、どふぞ表させて下さい、願くは天父は友人を導き、ます／＼いよ／＼つよくあらせて、洋々たる壯年のかゞみとならしめたまへ、すみれは友人の最上の幸福をいのるもので御座ります。

靜けき其聲は、天使の祝福ときこゑ、夢でゝちせられて、紳士は頭をたれたりしが、聲のたゆるやいな、身は辭して、戸の外にあり、時に夜靜かにして星きらめけり。

## 寄書

### ○南翠先生は明治文學の一大美觀　花君子

六七年前に馬琴にかぶれた文章を書いた土屋南翠と云つた人が今日宵名字内に啄がしく津輕八方外ヶ濱より薩摩潟沖の小島のあなたまで鳴響く須藤南翠先生なりとは思もかけざりし。進歩する世の中とは云ひながら＝悶れかし＝の口調を生嚙に並べられた方が今日日本のスコツトか、いゝやデユマださ百の慧眼を備へた批評家がアツト筆を投げて敬服欽仰等の讚賞文字を悉く呈する南翠光暉先生とは思もかけざりし。南翠先生はまこと恐ろべき文學の大家にして前後無類の宏才を持たるゝものなり。かく申す拙者が六七年前に土屋南翠氏の小說を讀んだ時には正直感心も仕らざりしが此頃來狩りに先生に敬服し、多く先生の作を讀んで益々鳳眼を增長させて愈々先生の作に敬服せり、今も「隱君子」を讀んで欽仰の度は溢れて終に先生に讚辭を呈する事となりぬ。

いつのほどにか忘れしが緣簑談の序なりしと覺ゆ、先生は自ら米國某氏の何々論(たしか地方何とか論とか云ひし)を讀んで感情の餘り此編を著はすトカ何とか書されし(あんまり何盤しで曖昧だが)、ヘテナ西洋の文章を味はれた方なら趣向が

最少し西洋じみて居さふなものだに從來の白痴をごかしの政治小說、つまらぬ事よさ思ひしに過ぎし日の國民の友に戯りたる先生の嗜好書目を見るに和漢の諸籍を斥けられてシエークスピーヤもゲーテもミルトンも何にもなし、サテハ日本の文章を好まれて流行のヂツケンスやサカレーはお嫌ひなるか、シテ見ればドツカ風琴に似るも無理ではないさ悟つたが此頃「隱君子」を讀んで又々疑惑を起せり、「隱君子」の文字何ぞ西洋臭氣あるや。七十四頁の＝彼の皇帝は御殿を閉し斜めに懸る夜の女王彼が緒身に飾りたるダイアモンドの光を放ちて靜かなる白き光明にいさゞ涼しさを加へたり＝の如きは丸で英の詩を譯した樣で英獨等の歐洲文學書に一の嗜好なき先生の筆とは思へざるなり。

「隱君子」に感服したるは人物の配劑にあり。誰にでも氣に入る樣に大臣新聞記者壯士令孃悉く網羅したり、春の屋風にアルアルさ頭を擬る神經質の鬧聲あれば鐵腸流に堂々さ演說する山路伯あり、東鮭の活潑なる曽我令孃あれば文金高髷の溫和しき千代見合娘もあり、西洋風に突然さ園遊會を以て起せば日本流に婚禮をもて目出たし目出たしさ結べり。是では老若男女道者釋氏を問はず、誰でも必らず愛好すべし。特に全篇の眞率にして俗物どものあくびを催ふすを防がんさて花骨牌さ烙烙調練の決闘をはさんで噴飯せしめた滑稽の才――是も又恐るべし。

南翠先生の多能なるは不可思議にして人間業とは思はれぬ手練なり、春の屋が行はるれば直さ春の屋、美妙齋がはやれば直に美妙齋、思軒居士が喝采を得れば思軒居士、竹の舍主人がもてはやさるれば竹の舍主人さ萬能の大智力なくして出來ぬ摸倣――摸倣さ申すは恐縮なれど有体に申して摸倣に巧みなる事は實に不思議猿猴が摸倣上手さ聞けど先生にはヨモ及ぶまじ。大自在力さでも申すべきか。殊に拙者が感るほど先生は明治の大家ださ悟つたは先生の作期せずして諸氏の作さ一致するを以てなり。言文一致の「うつら繪」思軒居士の飜譯体の「朧月夜」の如き文章の難解は兎にかく趣向がいつも全じ樣に一致する。申さば「隱君子」も共醉居士が「外務大臣」の變体――イヽヤ期せずして暗合せしなり。なほその上にも先生の暗合文章の不思議なるは極々細かき點まで及べり、拙者の記臆する處にては自著自笑の一篇及び「唐松操」の序文はどふやら誰かに似た樣なり「隱君子」の例言は新著百種さ暗合し一ヶ月計前の日本文學の二大吃驚さか題せしは篁村氏の日本文學の三絕に暗合し又最も不可思議なるは記者列傳に全じ樣に翼助云々さ日はれしに到つては暗合の妙極まれり。篁村君元より大家なれば是さ暗合する南翠先生は日はずさも大家なる事明らかなり。近日「臥待月」は西鶴さ云ふ人もあれど文字悉く篁村君に暗合せざるはなし。嗚呼篁村君及其他の人々さ暗合する大家。

むかし十返舍一九は常に京三二春町全交等さ暗合せり。一九の手腕なほ然るに南翠先生の大手筆先人さ暗合するは不思議にもあらず、さても大家――嗚呼、明治文學の一大美觀。

## ○筑前女子六哲歌

松井凌雲齋

我福岡。有㆓婦人協會㆒者。余不㆑知㆓其會長幹事爲㆒㆑誰。況其會員。余有㆓一愍侄一愛姉㆒。本月十三日該協會。開㆓衛生演說及幻燈會㆒。母姉皆將㆓招狀㆒。而當日余從㆓佐賀縣㆒歸庵。而有㆓細事㆒。不㆑能㆑使㆑聽㆑之。實可㆑謂㆓遺憾㆒矣。其翌余又向㆓縣下若松港㆒發。少有㆑所㆑感。往復車上呻吟。遂得㆓左一篇㆒。即手錄。寄㆓該協會㆒。聊以表㆓謝意㆒云。

筑之山水何雄偉。水浩蕩兮山崔嵬。寇峰巍々衝㆓天空㆒。玄洋怒號波奔駛。筑之山水何優美。風清氣爽開㆓青紫㆒。太宰府邊皎月高。十里松林綠迤邐。地勢好處俊傑起。此地自㆑古多㆓名士㆒。巾幗社中亦有㆑人。各以㆓所長㆒垂㆓姓氏㆒。「江崎氏是益軒妻。才德並全眞秀閨。聞說良人著述衆。女史內助居㆑多兮。」「釆蘋女史性瀟洒。一生精力注㆓文雅㆒。終身不㆑嫁事㆓吟遊㆒。幾篇詞藻傳㆓天下㆒。」「龜井少琴似㆓學徒㆒。讀㆑書講㆑文登㆓道腴㆒。此女多幸得㆓良偶㆒。其畫多題附首書。」「玉篠女史其名蘢。二川松陰其嚴父。女史健腕能畫書。眞是不㆑恥㆓名家女㆒。」「浦野望東性高軒。夙通㆓歌辭㆒究㆓淵源㆒。平尾山峽結㆓草舍㆒。楓葉紅處避㆓俗喧㆒。悲歌慷慨氣節存。結㆑交天下志士門。遠㆓竄孤島㆒氣不㆑屈。實是堂々眞傑魄。」「烈婦阿政赤間籍。芳紀十八頸香骨。賴翁過㆑驛作㆓其傳㆒。余亦吊㆑墓賦㆑詩曰。草紋荊棘蓬髮鬆。摘㆑菜拾㆑薪晨亦夕。頹俗易㆑傾主寳中。風敎難㆑及蓬蒿僻。却見壯烈出㆓破驛㆒。孤節凜々餘光發。試問世上挾㆑書徒。莫㆑愧䦨間一弱魄。」以上六女出㆓群衆㆒。有㆑文有㆑質或兼通。或㆑文乏㆑質今時弊。女流亦受此惡風。寄㆑言我州婦女宗。淑德宜㆑倣東幹功。氷操須㆑楷阿政節。高骨須㆑存望東蹤。」嗚呼閑眼四顧遊昨恋。遠山近水懸㆓高志㆒。瞑目沈思追㆓往時㆒。前賢事歷恍如㆑對。殊哉勿㆑空山河粹。勝力勿㆑愧先哲蹤。凌雲俯仰感慨多。聊綴㆓長詩㆒歌㆓遐思㆒。」

渡瀨寅二郎君義今般客員として入社し編輯及庶務に助力せらる。

# 開書

## 全國有志懇親會に送る書

婦人白標俱樂部

拜啓條約改正問題に就ては全國到る處政論沸騰仕候處愈々明廿六日を以て全國の同志者を府下に御糾合被遊一大懇親會御催し被遊候由定めて此會に依て大に後來御運動の方針等御協議被遊候事と奉存候政治上に就て特に盡瘁鞠躬被遊候段深く弊會が感佩所不能措に御座候

此度の御集會は申上候迄もなく平常の懇親會とは自から相異り格別天下の注目を惹き候事と存候得ば一舉手一投足も決して苟くもするは不相叶儀と奉存候間弊會も此度の御集會を贊成仕候と同時に聊か平生氣附き居候廉々具陳仕候間幸ひに卑見の在る所を御諒察可被下奉希候

弊會謹んで從來政治上に於ける懇親會なるものゝ有樣を觀察仕候處酒を用ゐざるもの妓を招かざるものは殆ど稀とする所に御坐候概して酒間時事を談じ酌妓杯盤を周旋するは一般習慣の如く相成り居候やに相覺へ候弊會はかゝる報を聞く毎に竊に眉を顰め平生是を以て大なる弊習の一として歎息罷在候事に御坐候然れども之を論じ出す好機會に遭遇いたさず候儀思ひながら今日に至るまで斯の問題を等閑に附し去り候處此度の御集會こそ一の好機會と存候に付敢て忌憚なく左に一言仕候

苟くも國家多事の秋に當り時事を慷慨し天下の先覺者を以て自ら任候輩が國事の爲に懇親を結び候に際し飮酒、何の必要有之候哉招妓、亦何の必要有之候哉端然色を正ふし儼乎容を改め候てこそ始めて天下の正議を與にするに足るべく酒杯獻酬、大妓小妓其間に周旋するが如き柔態忘容は國事を憂へて會する者の竊かに恥ぢざる可からざる儀と奉存候

將又方今の志士は常に國費の多端を憂へ地租の輕減を論じ細民の窮苦を訴ふるの方々と奉存候然るに其催ふす所の懇親會殊に國事の爲に御集まり候懇親會に於て娼遊纏頭酒杯舞ひ中村樓上絃歌湧くの狀態有之候ハヽ恐くは民間窮苦相叫ぶの聲と相照應して轉た悵恍たるもの可有之と奉存候今後は日に月に時事問題益々蝟集し來り候勢に候得ば隨て政治上の集會を要するとも亦頗る頻繁に相成候事なるべく此度の御集會にして此弊習を革めずんば其弊害の究極する所未だ知り易からざるものあらんと痛慮此事に奉存候

承り候得ば此度の御集會は改進主義を執らるゝ方々の御目論見に係り候由惟ふに改進主義なるものは啻に政治上のみに止まらず社會風俗等の上に於ても亦其の改良進歩を期圖せらるゝ事は必然の事と奉存候得ば此際政治を談ぜらるゝの傍ら從來の弊習を打破せらるゝも亦た先覺者の責任なるべしと奉存候政治上に於ける集會にて酒を褒り妓を聘する等の事實は殊に地方に於て往々耳目に觸する所に候得ば堂々たる中央都府に於て御開き被成候此度の大會の舉措は一々地方集會の則りとする所と相成るべく候に付請自隗始の意を以て獨り妓を聘することの不可なるのみならず酒を飮むことの最も賤しむ可きことをも明かにせられ度天下の大事を謀議する此度の御集會に於ては固より斯かる弊習を襲ひ候樣の儀は萬々有之間敷確信罷在候得共尚ほ一層愼重御勘考に御取斗被成今後政治上に於ける集會の模範を御示し被成下候樣仕度實に此度の御集會に就ての御措置如何は其及ぶ所決して小少にあらざるべく存候間苟くも先覺の諸士に於ては努々も斯一事を以て區々たる瑣事顧みるに足らずとして御看過被成下間敷弊會が失禮を顧みず備はるを君子に求むるの微志宜しく御取捨被遊區々の芻蕘の言苟くも執る可くんば幸ひに御一顧可被下候謹言

九月二十五日

婦人白標俱樂部々員總代
佐々城豊壽
潮田千勢

## 交詢

此の一部には四方の問ひに對し、記者が答へたるもの又は讀者中より答へを得たるものを記す也。

●一女生より條約改正論の可否を知るには何如なる書物が善きやとの問差當り二三種を舉れば、贊成論の方にては報知社矢野文雄氏の條約改正論同じく經濟雜誌社田口卯吉君の書が善かるべし何れも五錢にて兩社に在り、又反對論の方にては博文堂より發兌する植木枝盛氏のが善からん一冊十五錢なり。大略は之にて分明

●和歌山ヘドソン氏より日本現今の禁酒事業に付きての問、基督教婦人禁酒會の出來しはレビット婦人來遊の后、今日は東京橫濱神戶西京岡山秋田等にあり、發兌するものは婦人矯風雜誌、秋田矯風雜誌等あり、之に關係の會とは佛教者中にも二三あり其他にも多し日の丸、反省會雜誌、光など有力なる雜誌なり、日本人は之れに對する感覺何如んとの事一汎に至極贊成なり、飮酒の增減何如んと云ふと少しは減ずる方なれど外國酒の輸入は彌よ多し、亞片流行の有無の事は勿論制禁ある事ゆへ未だ用ゆる人あらず、其他の細かき事は異日一つの表として答へ參らすべし●諸方より女學雜誌は最早元の如く女の事は書かぬかとの問、之れは本號の社說にもあり又本號自身が現はす如く決して左樣でなく、反つて益々女の友となりて女の方々に代り代言をしたり又研究をしたり樂しみても見たり怒つても見たり仕樣と云ふ所存です。





Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 時事

## ○女學雜誌の改進

女學雜誌の改進を宣言するや、府下二三の新聞紙は云く、同雜誌は時世の紛雜亂調なるに感激する所ろありとて、此度學術雜誌たるの資格を脱し、新聞紙條例に從ひて一層手廣く世事を論報する由、左れば女學上の論說新報は言ふ迄も無く、之よりして更に百般の事務に關する女學的の意見續々其紙上に現出するとなるべし。

## ○其天職如何ん

然るに讀賣新聞記者は左の如く評したり、

女學記者の文章は聖經より胚胎し來れるか、何ぞ其淸秀偉麗なる、蓋し彼は聖使なり、荊棘社會の汚濁を掃蕩せん爲めに生れり、然るに今回學術雜誌を廢め、新聞條例に從つて紛雜亂調ある政治界の事項を記載せんとは、嗚呼是れ記者の天職にあらず。

左れど吾人は之を以て女性の天職ありと信じ、隨つて女學雜誌記者が不肖を忘れて敢て當べきの天命なりと覺悟したり、四方の讀者諸君希はくは今后吾人が如何に爲すかを覽て、常に其是非を評し、教示を垂れよ。

## ○伊藤伯の辭職

報知新聞は之を伯の勇退の志より出づとし、朝野新聞は內閣全躰に對する不平と條約改正中止の行ひたく而も行ひし以后の處分法に困してなりとし、每日新聞は伯が條約改正談判に關する冷淡を人の責めしに因るとし、政論は憲法違反の事に出づるとし、日本は條約改正に關し伯の意見を用ゐず大隈伯獨斷專行するに由るとし、公論は伯と黑田伯と當初の誓言あり今ま兩伯意見を異にし到底并立しがたきに起ると云ひ、日々新聞は條約改正に關し伯と黑田大隈兩伯との意見異れるに由ると云ひ、時事新報は閣議の重譴ならざるを不平としたる爲と云ひ又矢張り條約改正に關し當路者との意見合せざる爲と云へり。紛々たる臆說誰か其當否を知らん、讀賣新聞は云く西洋政治家が議論合ずして內閣を去るや必らず其旨を公言して敢て之を雲煙糢糊の間に付せざるは伯も能く知る所也西洋政治家の風ありと稱する伯の事なれば願くは其辭表の元因を演說せられたしと、吾人亦之を請ふ、但希はくは其元因の他言しがたき如き事情、言ふて男らしくなき如き事情に非ず、嘗て伯が米國に於て、又今年憲法發布の后に於て演說せられたる如き堂々正大の辭柄にてあらんとを。



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○人安んぞ廋さん哉

人心を忖度する固より難し、其臨時の情念を測量するは更に難し、然れども若し之を忖度測量するの法ありとせば、事の起りたる前后の景狀、及び其人從來の氣質並に現今の勢位を併せ考へざる可らず、改進黨の新聞紙は云く之れ條約改正に關するヿに非ず、非改進黨の新聞紙は云く之れ條約改正に反對するの意見に出づと、然れども伯は十七年間容易に内閣を去らざりし人也、但し近年快々として之を去らんと欲する事情進生したり、今は條約改正論熱烈切迫の時而して忠誠なる伯の之を輕視する時に非ず、黒田伯總理大臣を去らんとして山縣伯正に歸朝したる時なり、藩閥の事は伯の屢ば反對せられたる處ろ而して内閣を去るは藩閥を強むる効あるに非ず、左れば或る者の失敬にも想像する如く是れ長州派一時の權策に出づと爲さゞる限りは、伯の心情少しく覗ふヿを得べし、固より之にて覗ひ盡せりと云ふに非ず、他人より覗ひ得る丈けは之にて覗ひ得たりと云ふあり、其他の事に至つては伯一身の外何人と云へども知るヿを得ざるべし。

○三政黨三對

保守黨は化石の如し、堅實なれども伸る所なし、大同團結派は礦石の如し、黄金の砂なきにあらねど亦た土塊多し、改進黨は磨石の如し、光り輝やけども脆き所ろあり。

○改進黨に忠告す

敢て改進黨員諸君に忠告す、公等は成程財産にも智識にも經驗にも富ませ玉ふべし、然れども何故に上は帝國大學高等中學の書生より下は慷慨悲歌する氣骨ある壯士迄に嫌はるゝやの所以を知るか、公等は蓋し自ら其嫌はるゝ所以を知ろし召さじ實に知り玉はざる程に些細なるヿなり。本邦人平生貧居貧衣を榮ありとす、之れ野蠻の遺風ありと排したる所ろが矢張り實際の氣風は然るヿ也、故に諸公の髯、諸公の帽、諸公のフロツクコート、諸公の禮文、諸公の言葉附は實に本邦氣骨あるものゝ嫌惡する所ろに接近したり、故に異日更に文明開化するの時迄は一と先づ此等の細事にも掛念し、成るべく粗衣を纒ひ、生計を低くし、書生を愛し、貧民を鄭寧にし、出來る丈け万事を平民的にせらるべし、而して演説などの折には彼の智識財産經驗等の事を一切禁句とせらるべし、然らんには改進黨万々歳にして黨勢の擴張せんと夢にも疑ひなし。

○今日の政黨

若し歐陽修、蘇子由、魏勺庭の輩をして今日の政黨を評せし

めば、彼等之を何如にと云はん、曰く君子に朋と云ひ、小人に黨と云ふと、然らば政黨は是は小人の友か、ロウメル氏細かに政黨を分ちて、子供の政黨、少年の政黨、壯年の政黨、老年の政黨と云へり、見渡せば柳櫻混開す、たゞ君子正人の樹陰に隱るゝを見る也、吁之れ日本政黨三省を要するものにあらずや。

### ○條約改正の問題

條約改正の問題は一國に關する極大の問題にして、一個政黨に關する極小の問題なり、而して各政黨人は古來比類なきの激烈を以て之を政黨問題としたり、異日若し直接に政黨に密係する議論起り來らば、各政黨の爭そいは抑そも何如斗りとならん、條約改正は大隈伯一家の談判に非ず、改進黨一黨の公事に非ず、大同團結保守各派以下のみの原告すべきにも非ず、實に是れ日本帝國の休戚に係はる大問題にして三千九百万の男女老少一々個々に其意見を明言すべきものなり、此時に於て改進黨員の意見は總て如此し、保守派の意見は惣べて如此し、大同團結の意見は總て如此しと云ふものあらば、吾く先づ之を疑ふ、今日若し公明正大の戰起らば、父は子と兄は弟と皆別々に手を分たざる可らず。

### ○親分と子分

むかし江戸に有名なる親分ありき、子分之に屈從して事々に贔負せり、此親分嘗て或る士らい衆と談判せるとき、向ふを張る某親方も大ひに之を賞めたるが、中頃ろ子分が連りに意張るに由て、某親方の子分は癪にさへたり、之よりして著名なる安政の江戸喧嘩を起しぬ、識者之を評して曰へり、癪にさへしむるも惡るし、癪にさゆるも宜しからず、士らいがお上の事を談ずるならば如此きとは爲さずと。

### ○之を權量せよ

法官を任用すると固より快好ならず、然れども居留地に比較して何如ん。內地雜居にして若し白人雲の如く來らば人種存滅の爲に恐るべし、然れども之れ有るなきと也。土地讓與の事經濟上に於て憂ふべきに非ず、但だ北海道に特別令を布かば可也。法典編纂の事之を過密にせざれば善し、編纂夫自らに不可あるあし。支那人の事再考を要すべきものあり、然れども之に由りて英佛獨米諸國との條約を減ずべきに非ず。憲法違反の事、文に於て係はる所なし、且つ憲法實行前に於て倘ほ之を言わば彼の居留地制の憲法に大反するは何如。抑そも吾人は完全なる條約改正を望む者也、故に此度の改正案



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

が其に向つて數歩を進め得たりと賀す、若し夫今日直ちに完全なる改正案を實行し得べしと云はゞ吾人豈更に大賀せざらんや、但だ彼談判不成の日は戰爭すべしと云ひ、明年の國會を待つべしと云ひ、四五年后にはモ少し善く出來ると云ふ如き漫漠たる方法には密かに感服安心すること能はざる耳。

○日本婦女英國女王に呈書す

婦人白標倶樂部の會員は、英國女王陛下に向つて此度の條約改正案を速かに嘉納批准せられんことを上勸したりと。ムーデー氏曰く、嘗て南北戰爭に一婦人を見たり、敵軍村に近づくと聞きて彼女火箸を以て驅出づ、隣人嘲けつて云ふ之れ何の用を爲さんやと、彼女靜かに顧みて云く、固より殺すに足らじ、然れども妾の彼等に敵することを示し得べしと、

○無禮なる外國人

酒田丸一等機關師英人ゼ、ハードミートは楫取平馬忠吉を銃殺したり、然るに去八日横濱英國領事館に於ては之を五年の懲役に處したるのみ(日本刑法にては故殺は無期徒刑、毆打傷死は重懲役九年乃至十一年)。過日英人フリンク、米人エツトリンガー等が戸塚停車場近邊に於て亂暴したる事は、僅かにガゼツト記者の義俠心により各自五十弗の罰金に科せられたり。横濱居留外人デー、ウエルシは銅器商鈴木四郎左衛門氏が花瓶代金を要求する中、帳簿を奪つて引破り尚ほ鈴木氏の面部を毆打し之を瞑眩せしめたり、然るに九日英國領事廳の裁判に於ては之を無罪に宣告したり。以上の三件皆な前一週間中の出來事なり、然るに實際外人と取引し交際するときは更に多くの無禮に會ひ乍ら涙を飲で之を容せり、何んとあれば終極の公平ある裁判は是を日本國裏に於て受ることを得ざればなり。

○公認敎

佛敎を以て國敎と爲さんとし、若しくは云々の條項を備ふるものを以て初めて公認敎と爲さんとし、其勸告を政府に申出んとするものある由、如此き人は宗敎自由の明德を重んぜざる人也、人心自由の大理を重んぜざる人也、帝國憲法の明文を重んぜざる也、斯る人は條約改正を駁するに決して違憲論を唱ふべからず。

○正々堂々たる優勝劣敗

人は寸前暗黑の地を歩行するもの也、大賢と愚人と抑々幾干の相違ありや、たゞ正々堂々たる優勝劣敗の跡によつて眞道を辨知するのみ、此時に當り自利邪見の狹量を以て大法の行なはるゝを防ぎ、而して能く顯正すと思ふものはゞ如何なる



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

驕慢者ぞ、如何なる暗愚者ぞ、吾人固より一個の定見あり、然れども其是非曲直は之を事實に問ふに在のみ、事實に問ふは謹直嚴正にして事物の結果を察するに在る耳、政論者よ、宗教家よ、宜しく公平なる優勝劣敗の大勢を見るべし。

○慈善の聲

本年天災の甚しきを覺へば、實に涙の絶たざる也、之が爲めに各新聞社は義捐金を募集し、天下の義人響の如くに應じたり、銀行は之が爲めに無手數にて送金配附の手續を爲し、米國シカゴの外人も遙かに金若干を寄せ、佛教家は演説會を開き、婦人矯風會員は音樂會を催うし、チヤツチ氏は演技の上り高を寄附し、講談師は寄席の入金を義捨し、府下の各書肆は厚生館に於て其義捐競賣會を開らき、明后廿一日より以后十日間は壽座に於て義捐演藝會を催うさんとす、左れど鹿鳴館に於ては舞踏の復興したるを見る未だ慈善會を見ず。

○慈善の濫用

然れども、凡そ如此き會を催うすものは勉めて其の會計報告を明晰にし、出入の勘定は一錢一厘と云へども細報するを要す、何んとなれば慈善の精神は千圓の中にも、万圓の中にも、一厘半毛の中にも同樣に含蓄せらるれば也。

○慘憺たる悲話

本號に附したる圖は、過る七月福岡縣下に汎濫したる悲しむべき洪水大害の景況をば、三谷有信氏が十二の繪卷物に寫し、各大臣の一覽を請ふて被害地の實況大畧を上申せられたるもの、一部分なり、讀者若し之に由りて當時の景況を推察せば幸わひあり。

○義捐音樂會始末

去る十二日夜六時半、木挽町厚生館に於て開らきたる東京婦人矯風會義捐音樂會は、入場券並二十五錢特別五十錢にて來會するもの凡そ一千五百名あり、七時過ろ頃ほひ滿場立脚の余地なく、止を得ず入口を締切たるに空しく道來るもの人の濟を爲し一町余間白地を見るを得ざりき。扠て島田三郎君歐米遊歷中の感を談じ、次に撫箏、奏樂、劍舞等あり、總べて十分の成功にて、收入支出の計算左の如くなりしと云ふ、

收入

二六六、一七五

内譯

| | |
|---|---|
| 二六二、五四五 | 切符賣上高 |
| 三、六三〇 | 寄附金 |

計 二六六、一七五

支出（書記竹尾琴、小島清調査）

五五、五七五

内譯

| | |
|---|---|
| 七、〇〇〇 | 厚生館借料 |
| 六、三九〇 | 同所油炭蠟及人夫雇料手當 |
| 一、八二〇 | 樂器並椅子運搬 |
| 、三八〇 | 巡査及劵金願書認料 |
| 五、八四八 | 諸新聞廣告費 |
| 、一一〇 | 半紙及釘 |
| 一二、九四〇 | 音樂師一同へ謝儀 |
| 、七五〇 | 刀劍借入料 |
| 一、三〇〇 | プログラム千枚 |
| 八、七三七 | 諸雜費 |

（殘金）二一〇、六〇〇

二六六、一七五



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

而して此金は本社より各水害地へ配附することなれり。大内青巒氏が共翌日厚生館に於ての演説に、此ハ改進黨の運動費に充てたるものなりと公言せられしよし、如此きことは計算報告と金の遣い方とに由て直ちに明白となる者ゆへ、直様余り馬鹿〱しき言ひ掛とは分ると也。

○福地源一郎氏以下有罪

十月十日大野善兵衛其他八名は、僞證罪一件に於て悉とく無罪と宣告せられたり、然れども其裁判言渡書に由りて道徳上の判斷を下せば、

福地源一郎氏は大野善兵衛氏に虚僞の申立を爲すべきことを教唆したり、

武藤直中氏は虚僞の陳述を爲したり、

此の二事は明白にして消す可らず、公徳宜しく記臆すべし。

○櫻癡居士の文章

文壇の老將と目せられたる櫻癡居士は、其文章に得意とする所ろを某新聞記者に語りて曰く、余が長所は甘く事實を叙するに在り、而して時としては針程の事を棒程に言まわし、之を巧妙に辨じて人に感服せしむるに在りと、嗚呼是れ眞正の文章なるものか、吾人支那日本の僞豪傑より間ま如此き議論を聞けり、未だ正大眞摯なる文明君子より如此き意見を聞きたることあらず、文學美術の人に弄せらるゝや久し、何人か能く奮然之を聖地に復するものぞ。

○鹿鳴館演習を評す

閒遊の平氣、如燕の愛嬌、いつも乍ら感ずべく、其語によりて山田氏關根氏の作を推すに面白味多し、篁村氏の筆意を其儘に談じたる燕枝が江戸氣性は「男は言はぬが花で御坐ります」の一句結末千斤の價ひありき、綾瀬豊造兩氏の淨瑠璃滿分の出來、河竹氏九十賀、田邊龍子横笛、吾人には分らず、竹柴其水氏調市多摩川福助芝翫鶴松等の舞奇麗なりし、喜久重步路狂亂菊五郎の保名雄者放心の相十分に見ゑたり、古河默阿彌氏紅葉狩團十郎の女御は相容すさまじく沈鬱にして幽氣あるに由て初めより見榮あり左團次が維茂は重勇にして禮あり一度び怒ろ、獅子奮進の象を現はす共に當夜第一の觀なりき。寺子屋の段は兎に角、演劇には更に豊味なるもの多かるべし、我國の歌舞妓は雜と所作を混するを夥たゞしきに當夜の演劇は殆んど舞のみにてありし。日本演藝會規約第一條に云く、本會の目的は日本固有の演藝を保存し從來の弊風を矯正し其特質に由て發達せしむるに在りと、然らば此會の意見は演劇をして如此き方向に發達せしめんとせらるゝに在るか否や、夫によりて悪見なきにあらず。

○女　報

○東京女子手藝學校　町田かづ子、志村とみ子、古莊はる子、小崎千代子の諸氏發起となり芝公園能樂堂前に創立せらるゝ東京女子手藝學校は愈よ來月一日より開校せらるゝ由。

○本多せん子　は先頃より芝慈惠醫院に於て婦人科の診察を爲し居たりしが今度芝區新堀町廿一番地の自宅に於て廣く内外の診察に應じ婦人並に小兒に限り一切無料にて診察せられ處方箋を出たさるゝ由なるが尚ほ聞く處に因れば通常の半額即ち一日分四錢にて施藥せられ貧困者に限り無料にて與へらるゝと云ふ。

○看護婦召集　東京慈惠院看護教育所に於ては來る十一月三十日を以て願書差出期限とし年齢二十歳以上三十歳以下の婦人にて讀書並に本所規則、翻譯文、作文、通常書翰、往復文、算術加減乘除、普取の諸課目に依り試驗の上採用せらゝ由。

○供奉の女官　皇后陛下は今度京都へ行啓に付左諸氏へ供奉を命ぜられたる由。

高倉典侍、柳原權典侍、小倉權典侍、樹下掌侍、小池權掌侍、藪權掌侍、北島權掌侍、藤島命婦、西命婦、中東權命婦、生源寺權命婦

○女子職業學校の外塾　は是迄錦町三丁目五番地に設けありしも追々生徒の增員せしに付麴町區飯田町一丁目二番地へ移轉したり。

○鹿兒島女學校　今度鹿兒島にては女學校設立の計畫ある由にて既に米國より二名の女教師招聘の事も定まり且つ同校に付ては在大坂の故種田少將の未亡人が盡力せらるゝ筈なりと云ふ。

○滋賀縣私立高等女學校　去る四日に開校したる同校は追々生徒も增加して已に百五十餘名に達したれと別に學資金もなく僅に授業料と有志寄附金とにて維持し居ろとゆゑ當局者も之を憂ひ本年度より縣會に附議して地方税より年々千五百圓程づゝ輔助する事に爲さんと目下議案の調製中なりと云ふ。

○松山婦人慈善會　の例會は是まで同地伊佐庭氏の邸にて開會し來りしが本月は都合に因り松山公會堂に於て去る十五日に開會せられたる由。

○石見女學校　石見國邇摩郡大濱村に設立したる同校は通學生二十三名寄宿生九名ありて追々進歩の有樣なるが就中裁縫の如きは著しき進歩を見るに至りしと云ふ。

○産婆講習會　和歌山縣名草郡山東村の有志者は海草産婆講習會第三分會の發會式を擧行したりし由。

○士族女工場改良の集會　新潟縣下高田在高城村なる士族女工場は從來木綿機を業とせしが右にては迚も十分の目的を達し難きにぞ爾後絹機をも加へて盛んに羽二重地を織出さんと其豫算案を製し去る十日を以て相談會を開きたる由。



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○新　誌

**日本**　九日　條約問題、野官と演說●十日　大學教授の意見書捧呈●十一日　改進黨及其機關新聞●十二日　前接●十三日　憂國の誠は何處に在る●十四日　月曜發刊●十五日　條約案調査委員

**每日新聞**　九日　百怪滿目●十日　前接●十一日　前接●十二日　條約問題と帝國議會●十三日　前接●十五日　伊藤伯辭表を呈す

**朝野新聞**　九日　山縣伯に望む所あり●十日　前接●十一日　帝國大學生徒諸氏に望む●十二日　大學總長に質問す●十三日　政府を衰弱せしむる者は誰れの罪ぞ●十五日　伊藤伯の辭職

**東京新報**　九日　法制局擴張の議ありとは眞か●十日　敢て政府部内の新條約案反對論者に質す●十一日　外人任用に關する學理的觀察●十三日　其れ誰をか責めん●十五日　伊藤伯の進退

**政論**　九日　條約改正の我國將來の經濟上に關する關係●十日　前接●十一日前接●十二日　朝野記者何ぞ公然藩閥内閣を主張せざる●十三日　我帝國を如何んせん●十五日　北海道の未來

**時事新報**　九日　人種論●十日　前接●十一日　前接●十二日　日秘鑛山會社●十四日　日本商工家諸氏に告ぐ●十五日　前接

**報知新聞**　九日　同志諸君の郷に歸へるを送る●十日　解惑●十一日　九日續●十二日　前接●十三日　週遊艸●十五日　伊藤伯の進退

**日々新聞**　九日　校長教員と時事問題●十日　條約批準論●十一日　前接●十二日　前接

**讀賣新聞**　九日　調和論●十日　前接●十一日　前接●十二日　前接●十三日　如何にして日本の演藝を發達せしめん●十四日　伊藤伯●十五日　十三日續

○時事新報の人種論商業論

今日の新聞紙は遠目鏡の如し、能く遠方迄で見る如くなれど常に一方しか見ず、此際目を八方に配り、變通流轉化移自在にして常に能く全般新聞紙たるの資格を盡すは時事新報なり、今や何の新聞紙も條約改正論を以て狂熱し、天下必迫の大事毫も他にあるなしと思へり、此時超然優然として能く他の事を論じ得るものは則はち時事新報なり、吾人必らずしも其說に服せりと云ふに非らぞ、只だ其の凝固せざるに服すと云ふのみ。

○國民之友の平等論

嵯峨の屋氏禪理を樂しまると覺ゆ、佛論は其文の空漠放漫なるによりて味ある如く見ゆれども決して人情に至中するものにあらず、喩へば幽谷より虹を望み雲を見るが如し、刻肉高登すれば益々霧中に入る、而て此らに望めば虹すでに無し、只だ廣空として身の寒冷なるを覺ゆる心地す。吾人氏が純潔高雅なるに服すも、其の輕薄浮華なる多文學者中に一種卓出するの象あるを認たむ、而して今若し禪外に冷化し變化するに至らば痛哭に堪へず、暑士惡文學は能く人をして不平ならしめ、佛法は能く不平を散じて柔死せる平等に歸せしむ、氏希はくは餘暇あるとき歐米の士君子と儒佛的賢者の傳記とを比較し、且つ基督教聖書約翰の一篇音書を玩味せよ。世は冷たきものにあらず溫かき處也、沙漠に非らず溫室也、絕望して歎ずべき場所にあらず天の綠野に眠るべき世界也。

○時務評論に感服す

世人未だ倩切に之に注目せざるは何んぞや、吾人は常に時務評論に感服し、亦いよ〳〵之に感服するもの也、其奇想、其正念、其着眼、其文章皆な凡物に非ぞ、但だ少しく西洋的の思想を欠くが如けれど其淺薄を解する頗ぶる魏叔子新白石に倣ふものに似たり、特に文學上の趣味深々たる所ろに至ては何人と云へども賞觀せざる可らざる筈なり、然るに此記者が前に編輯したる「情」はすでに絕刊し、時務評論も亦た此頃に至り發行度數を減じたり、何故に斯る者が賣れざるか寧ろ歎ぜざる可らず、國民之友は正に圓熟したり、活火今や燃い上らんとして尙ほ熾んならざるは即はち時務評論歟。

○週　報

◎官令　去る九日勅令第十二號を以て明治十八年度歲入總決算を公布せらる●去る十四日勅令第百十三號を以て臨時帝國議會事務局設置の件を公布せらる

◎宮延　去る八日在京都華族總代として天機伺の爲め出京の正五位男爵若王子遠文へ拜謁仰附けらる

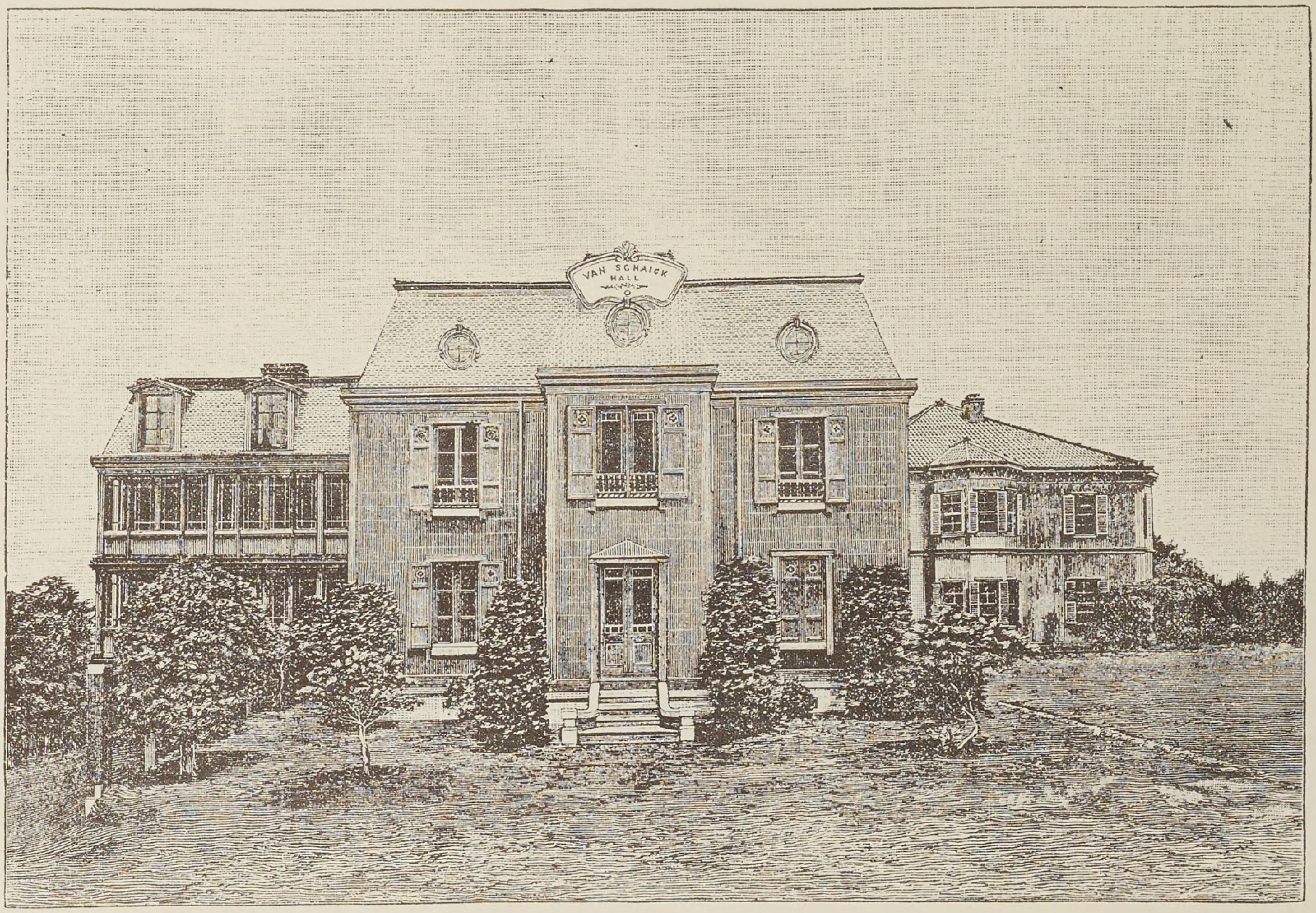
◎政治　去る八日大隈、松方、山田、西鄕、大山、榎本、後藤の各大臣は內閣に參集して會議を開かれたり●帝國大學教授過半の諸博士學士は非條約改正の意見書を山縣伯に呈出せられたる由●後藤伯は去る十日條約改正に關する意見書を內閣各大臣へ贈られし由●去る十一日黑田總理大臣を始め大隈、西鄕、山田、松方、大山、榎本、後藤の各大臣は內閣に參集し會議を開きたり●伊藤樞密院議長は去る十一日辭表を出されたり

◎經濟　大藏省印刷局構內に於て去る八日より三日間紙幣燒棄てをなせり●大藏省にては各官衙の特別會計法を制定せしむるとに內決したる由

◎教育　芳川文部書記官は去八日九州聯合教育協議會へ臨席の爲め出發せられたり○大日本教育會は去十二日一ツ橋外大學講義室に於て臨時總會を開かれたり

◎美術　宮內省にては美術上の研究を奬勵せんとて今度二万圓を日本美術協會へ下附せられたりの彫工柳澤加藤外數氏は上野公園地に明治麒麟閣を建設し諸名士の肖像を陳列せんとの計畫あり

◎雜報　政教社出版の「嗚呼條約改正」は治安に妨害ありとて發賣を禁止せられたり●大坂天滿紡績會社の工女三百名は同盟罷工を試みたり●去る五日廣島に於て關西有志大懇親會を開かる●關西鐵道會社にては草津、三雲間の工事竣工せしを以て去る九日試運轉をなしたる由○東京公論は去る十四日發行停止を命ぜられたり




秀英舍印刷

# 布恵利須英和女學校

## 校則大畧

### 第一　本校の目的

本校の教育は及ぶべき丈け時勢の必要に應じて實用の教育を施し、先づ女性固有の諸能力を平均に發育するとを主旨とし、學力は普通學及び英和兩學を充分に敎習せしめて專ら會話筆記に精確流通ならしめ、又た後來女教師となるの資格を具備せしめ、且つ一家の庭訓經濟より外か交際上の義務に至るまでを教授し、特に基督教によりて風儀道德品格を上達せしむるにあり。

### 第二　本校の位置

本校は橫濱山手空氣尤も淸く眺望尤も美なる所ろにあり、校舍の建築には特に衛生上便利上に深く慮ばかる所ろありたれば、玆に來り學ぶものは健全と爽快とを幷せ得べし。

### 第三　本校の役員

西洋教師六人、本邦教師十三名、校醫一名、講師若干名、試驗委員十名あり。內西洋教師五名本邦女教師七名は常に女生徒と共に同宿し朝夕其の教導保護に從事す。

### 第四　本校の學科

豫科二年、本科四年、高等科二年、總て八年を以て卒業とす、豫科最初の級は尋常小學科卒業に匹敵するものに相應し、高等科最終の級は英文學心理學教育學哲學史開化史等の大畧を卒る。

### 第五　月謝及月俸

束脩二圓、通學生授業料二圓、寄宿生同一圓半、塾生室料油費五十錢、食料三圓。外にピアノを學ぶ者は二圓、ヲルガンを學ぶものは一圓五十錢。

### 第六　塾室の取締

塾舍は二階三階に在り尤も淸潔便利なり、而て非常時の用意綿密に備はるに付毫も掛念なし、塾中には取締の保母一人常住して一切の保護を爲し出入を嚴密にす、校醫隔日に出張して塾生の健全を保安し、病あるときは藥を供え且つ鄭寧に看護し、塾生他出するときは決して獨行せしめず、門限を嚴しくして濫出を禁じ、買物は諸生の親づからするとを止め、校內に俗場洗濯場ありて一切外出を要せざらしめ、校舍中を純然たる一家內として之に和樂團欒の幸福を圓滿せしむ。

尙ほ精密なる規則書を一覽ありたきものは郵券二錢封入の上へ御申込あるべし、新築校舍正ㇾ落成に付當分何時にても入學を許す。

橫濱山手百七十八番　フェリス英和女學校

明治廿二年五月三十一日印刷　印刷者　東京々橋區西紺屋町廿六番地寄留　島連太郎

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

## ●女學雜誌社出版書目

# 婚姻論

○統計局次長世良太一君序○統計協會議員呉文聰君序

通今居士　横山雅男君著

○定價一冊三十五錢無遞送料

右は横山君が得意の統計學上より婚姻の定義其外早婚晩婚離婚などすべて婚姻に關係する事物は擧げて殘す所なく議論の確實なる擧例の精密なる世の父母たるもの亦た青年の男女の方々必讀の書なり

# 束髮案內

美製小本八十頁細圖入

定價十五錢無遞送料

○田口卯吉君結髮沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋

○渡邊鼎君著

當今束髮流行の折柄其結び方不案內の婦人少からず此書は日本婦人に適する束髮二十餘種の結び方を丁寧に敎へ一々細圖を附して親切に案內すれば何如なる僻遠の地に在りて束髮の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文束髮會の規則其外をも添へたれば結髮改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

# 改正増補 文法口授

全一冊●一名和文獨案內

定價十八錢無遞送料

○鈴木弘恭大人著述○小中村淸矩大人評

此書は文章家なる鈴木大人か多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて幾に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば倘亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾に附し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過ぎたる良書なかるべし

●右文法口授は學校敎科用の書籍に適當なりとて既でに成立學舍女子部及び頌榮女學校並に明治女學校長桑女塾等の敎科書とありたり

# 善惡之岐　新刊

中島湘烟女史著

定價五拾錢無遞送料

目次● 一、野蠻とも言へ未開とも云へ實に太平の里となるべし二、高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士三、紅潮端なく上る佳人の面四、一樹の名花春動く初五、谿間の淸流も繁都の泥水なりしを知らずや六、雙腕の勇餘す所なく滿腹の智還す處なし七、撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり八、擬夢情煙春月暗九、誰知一滴愛情水散湧奔波激涙來十、世上の功名灰塵に異ならず十一、錢囊瘦腹裏飢以て天下の經濟を論ず十二、貧生の慷慨恃むに足らず十三、當路の君子にして袖の下を嫌ふものあらじ十四、雙蝶花に戯れて春情あり十五、歡樂のある處悲愁の伏する處十六、姉妹の談濃かにして春窓の燭微かなり十七、怨もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる十八、撫松庵が胸邊寒むく吹き送る幾間の風ぞ腥し十九、世難海より深かく人情紙よりも薄すし二十、會離緣あり應報爭ふべからず廿一、優なる哉水聲人事の齷齪を嘲ける廿二、情人の艶話唯閑雲の聞くあるのみ廿三、上帝親なく唯善人にくみす廿四、客窓涙あり孝子の情廿五、玆に因ありて玆に果あり廿六、人間の歡樂一場の夢廿七、墜葉翻て力なく懶禽啼て恨あり廿八、地下の白骨土いまだ冷かならず病窓の美人恨愈多し廿九、帚花原是落花風卅、人の死する其の言ふ事や善し

# 產婦小兒 攝生法

（新著）一冊十八錢無遞送料

船越鼎太郎君著

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑒み專ら當今の養生法其道を盡さゞることを敎へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ること、出生の期日を知る法、妊娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飲ませる間の養生法、母の乳を用ゐずして子供を育つる法等こと〴〵く信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

木村熊二、田口卯吉兩君序○關輪正路君纂著

女子必携 **今世ひめ鑑** 全一册　實價四拾五錢　無遞送料

凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵記載し有之候蓋し昔の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

---

巖本善治編

女學叢書 **木村鐙子小傳** 定價十錢　無遞送料

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものなり

---

佐々木豐洲女史譯

**婦人言論の自由** 全一册　實價八錢　無遞送料

右は婦人の言論に關するとに就き切論せられたるものなれば姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものなり

---

○鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記

**つれ〳〵草講義** 定價十二錢　無遞送料　第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴孃諸子請ふ續々購讀あらん事を

---

● **通信女學講義錄** 坂本安賣

通信女學講義錄は一册大抵六七十枚づゝあり母親又は妻君が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば二三年の後は和學、理學、地理、歷史、及び子育法、女子生理、家內理學、經濟學などの一班を居ながら學び得べき方法なり一册代價二十錢の處大勉强一册拾錢に其定價を減じ**即ち十五册**自一卷至十五**代金壹圓五拾錢無遞送料**にて賣捌ひ申すべし

麹町區富士見町二丁目一番地　**女學雜誌社**

---

觀客諸君ノ御眷顧ヲ蒙リ社業日ニ月ニ盛運ニ相向候段深ク奉謝候就テハ今后諸君ノ御便益ヲ謀リ尙ホ大ニ本部ノ業務ヲ擴張仕內外ノ商會及書肆ト特約ヲ結ヒ本社從來ノ正實ト非常ノ勉强トヲ以諸種學校用ノ敎科書ヲ始シメ和漢英佛獨等ノ文學法學理學哲學農學工學敎育倫理宗敎等ニ關スル一切ノ書籍雜法類繪札(クリスマス、カード　パアスデー、カード)幷ニ風琴ピアノー、幻燈器其他敎育器具類等最モ廉價ニ最モ迅速ニ御注文ニ應スヘク候間續々御用被仰付度願上候也

女學雜誌社書籍部

---

植木枝盛先生著　新版

**東洋之婦女** 全一册　定價四十錢

賢夫人淑女十六名の序文

右は雷名の轟き渡る女權擴張家なる植木枝盛先生の著述にして男尊女卑の原因より其結果及救濟策幷婚姻夫婦の關係、世間婦女の交際、又將來婦女の景況等を實事より立論せられたる一大新論なり必用の活書なり現今文明の風潮益々滿盈せんとする今日男となく女となく必讀すべきの新書なり淑女賢夫人十六名の序文にも此書の現今に必要なるを證せられたるは世の文明を欲する人々よ速に愛讀の榮を賜ひ

**賣捌所**

神田區小川町　集成社

麹町區九段坂上　女學雜誌社

---

婦女 **災害義捐金寄附者姓名**

各地方へ

金二百拾圓六十錢　但馬國生野

同一圓　東京婦人矯風會

同三圓　栗本とよ子

同一圓　千葉縣有志婦人

同五拾錢　麹町區飯田町明治女學校　和文專科生五名

同三十錢　同　穴山とみ子

麹町區壹番町廿七番地　某女

和歌山縣へ

金一圓　土佐國高岡郡須崎町　渡邊喜久衞子

小計二百拾七圓四十錢

合計金二百五十三圓四十錢

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 廣告

## 會報

### 婦人白標倶樂部記事

明治廿二年六月有志ノ姉妹相會シテ本會ヲ組織シ規約ヲ編世ニ公ニス○本部ノ綱領ハ左ノ如シ「我らの女子は宮のふりにならひて刻みいだしゝ偶の石のごとくならん」○本部規約第五條ニ基キ幹事ヲ互撰ス其撰ニ當ル者工藤佐野相良龍ノ二名トス○七月十一日本部ノ内規ヲ定ム○八月廿七日江戸開府三百年祭ニ際シ本部ノ總代トシテ佐々城豊壽潮田千勢署名勸告書ヲ江戸舊諳會三百年祭委員長榎本武揚君ニ呈ス○九月廿四日本部ノ總代佐々城豊壽潮田千勢全國有志懇親會ニ勸告書ヲ贈ル○本部ノ總代佐々城豊壽潮田千勢本田孝宮村てい工藤佐野相良龍紙尾ニ署名シ書ヲ十月七日橫濱抜錨ノアラビック號ニ托シ大英國女皇ビクトリア陛下批書官ポンソンビーニ捧呈ス十月十一日本部ニ於テ委員會ヲ開キ内規ニアル各分課ノ委員ヲ撰ム左ノ如シ潮田千勢、佐々城豊壽、元良米、宮村てい、小島清、工藤佐野、相良龍、本多孝、○本部規約第三條ニアル毎月第一土曜日ノ談話會ハ第二土曜日ト改ム

婦人白標倶樂部幹事

明治二十二年十月

工藤さの子

### 相談會決議書

一事務所標札ハ曲尺三尺幅八寸加藤會長ニ依頼スルヿ
一規則ハ五百部印刷スルヿ
一幹事三宅藤子氏辭職サレシニ付管者榊幸子氏代ルヿ
一來月例會ヲ親睦會トスルヿ但シ演說ノ代リ衛生上ノ談話
一會場ハ小石川後樂園カ若シ同所差支ヘナレハ植物園ノヿ
　但シ後樂園拜借ノヿハ石黑氏ニ依頼スルヿ
一會員ハ會費三十錢但シ會員外同伴人ハ豫メ人數未知ニ付凡テ辨當持參ノヿ然シ成ルベク知己朋友ヲ誘引スルヿ
一講師並ニ終身會員ヘハ招待狀ヲ出スヿ
　饗應ハ西洋立食附麥酒二ダース
一會員ノ通知書ニハ出欠席ニ拘ハラズ凡テ返事ヲ得ルヿ
　會之レハ辨當用意ノ爲ナリ但シ二十五日限リ返事ハメ切ノヿ
一講師ノ招狀ハ會長ヨリ出スヿ
一千葉支會ヘ親睦會ノ案内狀差出事
一音樂ハ太田氏ニ依頼スルヿ

---

# たむし患者に禀告す

世人の最も恐るゝ内攻、再發、他病誘發の憂なく而部たりとも傷痕を留ると絶て無し治療日數は病症の輕重によれども二週間以内に根斷す◎開設以來僅に一周年端なく大方淑女紳士の實驗により過當の頌贊を被り百施百治、奏効如神等の贊辭を辱ふし且地方名醫諸君の贊成少からざる中にも大坂病院醫士楳田氏の如き同市具砂町出張所に於て同地方の需を分擔せらるゝに至れり新舊の患者特に他療にて治癒せざる遠近の患者は此秋冷の好機を失はず速に實驗して伯爵某公の所謂**獨得**の妙なるを確め無二の新療法たるを知れ◎地方在住の患者は弐錢郵券を送らば能書を呈送す◎若し藥効を見ずんば藥價を請けず

十月

東京神田區錦町一丁目一番地河岸通

專科 **頑癬治療所**

---

# 東京輿論新誌

第四百拾五號　明治二十二年十月九日發兌

◎(社說)内地雜居及び不動産所有權(第五)◉最惠國條欵(波多野傳三郎)◎(演說)中止後の結果如何◎(論說)最惠國條欵◉本邦女子敎育論◎(寄書)懇親會及演說會◉憲法解釋論◎(時事)立太子◉行幸◉山縣伯◉國欵◉警官と壯士◉歐米近事◉演說◉政論◉(其他數件)

◎定價一冊五錢(府外郵稅五厘)十冊四十八錢◉二十冊九十錢◉半ケ年一圓二十二錢(郵稅共)

發行所　京橋區尾張町新地七番地　**嚶鳴社**

遞信省認可

# 明治女學校生徒募集廣告

明治二十二年十月十日

麹町區飯田町三丁目十三

本校建設以來既に五年の星霜を經過せり其間焦心苦慮以て眞正の女流を養生せん事を務めたり、幸にして全國各地に於て本校の素志を宜しとせらるゝ人多く遠く笈を最愛の孃子に負はしめ入學せしむるの徒日に月に夥だし、本校は慈母にかわりて其愛孃を撫育すべく尊嚴なる父にかわりて之れを叱責すべし、校舍の監督固より嚴なり、然れども優情を以て亦た慰藉するの職員多し、蓋し其愛子を托せらるゝに於て顧慮する處なかるべし◉高等科は未だ滿員に至らず可成速かに申込あるべし◉普通科は欠員ある級に限り試驗の上入學を許す◉寄宿舍は既に滿員せしも望みの方は幹事へ御申出ありて欠員の都合により入塾の許可を得らるべし◉下宿より通學なす者は或は身元慥かならざるものは入學を許さず

# 生徒募集廣告

一本校今般普通科高等科男女子生共募集候に付東京音樂學校入學志願者及唱歌教員たらんと欲する者ハ來十月二十五日限申込みある可し

但し願書用紙ハ本校より渡す

一今般更に樂器專脩科を設け三時後より教授す志願者十月十五日限申込ある可し

一專脩科オールガン、ヴイオリン、ピヤノ三科トス

本郷區駒込追分町

私立 東京唱歌專門學校

# 成立學舍女子部生徒募集

本月下旬學期試驗結了高等科、本科、及幼年科へ入學を許す望みの者ハ來る廿八日迄に申込べし〇受驗料金壹圓、高等科、本科月謝金壹圓五十錢、幼年科月謝金壹圓

東京駿河臺袋町九番地

私立 成立學舍女子部

## 發兌

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 十月。 | 五日 | 十二日 | 十九日 | 廿六日 | |
| 十一月。 | 二日 | 九日 | 十六日 | 廿三日 | 三十日 |
| 十二月。 | 七日 | 十四日 | 廿一日 | 廿八日 | |

## 定價

一册。六錢　郵稅。五厘　(但府內無郵稅)

十册。五十八錢郵稅。五錢　(同前)

半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢

一年分　二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

## 廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行(廿七字詰)　一回　前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社識の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌ハ今後女學校又ハ婦人會杯ヨリ毎發兌十册以上一纏ニ御注文ノ向ヘハ別ニ一册ハ無代ニテ進呈可仕候


明治二十二年十月十七日印刷

明治二十二年十月十九日出版

發行所　東京麹町區[illegible]士見町[illegible]一番地　女學雜誌[illegible]

編輯兼發行者　東京麹町區富士見町　巖本[illegible]

印刷者　東京芝區源助町十[illegible]　森田[illegible]